

会誌

惠迪

— 第15号 —



平成 27 年

惠迪寮同窓会

会誌
恵 迪

(第15号)



恵迪寮同窓会

恵迪寮同窓会 この一年！

恵迪寮同窓会 西日本大会

(平成 26 年 9 月 13 日・京都第 2 タワーホテル)



《大寮歌祭》

地元関西を始め北海道、九州から約 100 名が参集。舞台では寮歌の放歌高吟が続いた



《開識社講演会》

日本プロ野球機構・審判技術委員の山崎夏生氏（北大文学部卒）が野球人生を大いに語った

北大ホームカミングデー 2014 参画 文化講演と寮歌の集い

(平成 26 年 9 月 27 日・クラーク会館大集会室)



《文化講演》

元副学長の藤田正一君が「北大の源流・日本のオールターナティブ」と題して札幌農学校の清き精神について語った



《寮歌の集い》

「時潮の波の」作曲者・寺井幸夫君（中央）夫人とともに参加し寮歌を熱唱

恵迪寮、同窓会を支える“女子力”



《佐藤静子さん》

長年に亘って同窓会本部事務局を一人で守ってきた佐藤さんに吉沢副代表幹事から寸志を贈呈
(平成 27 年度理事会の懇親会) ※関連記事 41 頁



《中川智美さん》

100 年を超える恵迪寮史の中で初めて女性の寮長が誕生
(恵迪寮前で) ※関連記事 68 頁

新年寮歌歌始めの会

(平成 27 年 1 月 31 日・氷雪の門)



大谷支部幹事の発声で寮歌斉唱



役員、来賓者 7 人で鏡割り



老いも若きも「別離の歌」でフィナーレ

恵迪寮円山公園観桜会

(平成 27 年 5 月 6 日)



公園に到着するや赤フン姿でストーム開始。
もの珍しさで輪に入って楽しむ市民も多かった



葉ザクラの下でジンギスカン鍋をつつきながら OB と
交歓

旧恵迪寮舎の献歌・観花会

(平成 27 年 5 月 16 日・北海道開拓の村)



旧寮舎前でおそかに「都ぞ弥生」を献歌



野生小動物の食害に荒らされた花壇の改修を検討

恵迪15号もくじ

巻頭言

高い志で「同窓力」を強化……………恵迪寮同窓会会長 横山 清 8

ご挨拶

「恵迪寮」の伝統を世界へ……………北海道大学総長 山口 佳三氏 9

同窓会の横糸と縦糸を紡いで行こう！……………恵迪寮同窓会代表幹事 白浜 憲一 10

「ひとは石垣、ひとは城」……………北海道支部長 内藤 春彦 10

後世に伝えるべきこと……………東日本支部長 坂倉 雅夫 11

支部長就任の心意気……………西日本支部長 植松 高志 11

恵迪寮歌空白（欠番）年の真相……………「恵迪」編集委員会編 12

特集

思い出の恵迪寮〜我が青春に食いなし〜……………能勢 誠夫 16

学兄・伊沢久夫君を回想する……………藤倉 孝夫 20

「燃えなん我が胸」五十有余年……………平良 健康 22

祝 北海道大学合唱団創立百年……………金 武彦 24

「林住期」からの断想……………原口 芳明 29

『瓔珞みがく』作曲家・星野奇君に捧げる……………倉嶋 清次 31

家族そろって寮歌祭……………光井 久 33

寄稿

親子2代、同期生……………松岡 繁幸 34

春秋の十年の後に……………荒井 一利 36

恵迪寮は心の母川……………呉 敦 37

栄え行く我等が寮を誇らずや……………小倉 瑛矢 39

楽しい思い出ありがとうございました……………佐藤 静子さん 41

地道にこつこつやっています……………佐藤 市雄 41

大震災や病に屈せず同窓会活動に尽くした山中義正君……………窪田 開拓 42

①「39・40会」入寮50周年のつどい〜宇治川河畔に流れる寮歌……………佐竹 正治 43

② 昭和58、59、60年入寮30周年の集い〜湖に星の散るなり……………藤本 康男 46

「文化講演と寮歌の集い」開催……………51

2015年恵迪寮同窓会東日本大会のご案内……………52

寮歌その他収録した4種のCDを進呈……………前島 一淑 53

小樽商大応援団OBからのメッセージ……………中川廣太郎氏 54

「野球でこぼこ道」〜パ・リーグ審判歴29年……………講師 山崎 夏生氏 55

「自然エネルギーを地域で活用する試み」……………講師 荒木 肇氏 61

事務局だより

追悼

同期会

イベント案内

お知らせ

他校からのメッセージ

開識社講演会

情報化時代と恵迪寮……………第304期執行委員長 道信 有真君 67

恵迪寮に初の女性委員長（寮長）誕生……………68

平成26年度寮歌「姫月に重ねて」……………作歌 松元一平君 作曲 寺尾佳隆君 69

恵迪寮同窓会第13期平成27年度理事会報告……………71

恵迪寮同窓会北海道支部平成27年事業計画……………82

編集後記……………88

*表紙は北大第一農場で牧草を喰む羊の群れと大きく成長した平成ポプラ並木。遠景は手稲山。

巻頭言



高い志で「同窓力」を強化

恵迪寮同窓会会長

横山

清

(S 31年入寮)

21世紀に入ってから、はやくも15年の月日が流れ、世界の政治、経済、文化、社会いずれもが激しく流動変化し、新自由主義を基盤としてきた資本主義社会の存在も危ぶまれる昨今であります。話題のトマ・ピケティが、著書『二十一世紀の資本』で指摘する「格差社会」の現状については議論百出ではありますが、地域の格差、所得の格差、そして世代間の格差についてその分野ごとに大きな問題点が次々と顕在化し、人類存亡の危機すら現実として認識せざるを得ぬことに改めて愕然としております。

さて、北大恵迪寮同窓会も結成以来32年を迎え、過去様々な活動を振り返り、同窓会活動の基本である「会員の増強と強靱な同窓会構築」をさらに推し進めるべく、全国三支部（東日本、西日本、北海道）と共に、新時代に相応しい事業計画を、理事会を中心に立て上げました。

財政面も十分とは言えませんが、運営に支障がない程度で推移しており、各委員会の活動も順調ではあります。しかし、若手の同窓生の参加が今一つ低調の域を脱しきれないのが大きな課題です。また、3代目にあたる現寮も、はや築後30年を経過し、保守・修繕など寮生活に齟齬を来している面が多々あり、恵迪寮存続への支援が喫緊の課題となりそうです。ホームページ、ブログ、SNSの活用によって、現寮生との取組みを意識した試みも進み始めました。

幸いにも、本年度より大学当局のご配慮により、クラーク会館3階に本部事務局を移設できましたので、母校との交流も一段と深まるものと期待しております。

いま、北大は創基150年（来年で140年）に向けて近未来戦略を策定し、積極的な教育・研究的な教育・研究体制の再構築に踏み出しました。札幌農学校以来の歴史を経て「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」そして「実学の重視」の建学精神を旗印とし、スーパーグローバル大学創成に乗り出したのです。その詳細はさて置き、これはまさしく「貴き野心の訓え培い」を極大化するものでありましょう。

大学力の強化の背景には、同窓力の強化があるべきと考えます。その為にも、高志、信頼、団結を固めましょう。

来年は昭和11年寮歌「嗚呼茫々の」の誕生80周年にあたります。作詞者・宍戸昌夫先輩は、白寿にして益々ご壮健です。小生も『八十にして精神百倍すべし』と自省し、皆様と共に同窓力の強化に努めます。



「恵迪寮」の伝統を世界へ

北海道大学総長 山口 佳三氏

恵迪寮同窓会の皆様には、日頃から本学のためにご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。今年は雪解けが早く、札幌では例年よりも早い春の訪れとなりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

総長就任以来、学部同窓会や地区等同窓会の様々な会合に出席させていただき、同窓生の母校に寄せる熱い思いを感じております。

その中でも、昨年参加させていただきました「寮歌始めの会」では、世代を超え、約80名のOBや現役寮生が一堂に介し、「恵迪寮魂」の拠り所である「都ぞ弥生」をはじめとする二十数曲の寮歌を高唱する様に感動するとともに、明治40年に始まり毎年寮生によって作曲されている寮歌は百十数曲にも及ぶというところに、恵迪寮同窓会の伝統と絆の強さを垣間見ることができました。これからも北海道大学の源流の一つであるフロンティア精神を、この寮歌によって継いでいただきたいと思います。

会の中では、長く歌い継がれてきた伝統のある寮歌だけではなく、私の出身である京都大学（第三高等学校）寮歌「琵琶湖周航の歌」も参加者の皆様に歌っていただけました。大変光栄でした。

北海道大学は、「現代日本学プログラム」課程及び「新渡戸カレッジ」を北海道大学の国際化の両輪とし、バイリンガル・キャンパスを実現したいと考えています。

特に、「新渡戸カレッジ」においては、国際経験豊かな恵迪寮同窓会の皆様にもカレッジ生の良き理解者、助言者、教育者として、カレッジ生を支援していただきたいと思います。

また、同窓会の皆様だけではなく、現役寮生の皆様にも、多様化、国際化が進む恵迪寮の共同生活の中において、留学生の皆様が母国に帰った後も「心」の拠り所となる、恵迪寮の伝統を語り継いでいただきたいと思います。

北海道大学の良き伝統の証として、「都ぞ弥生」がこれからもたくさんの方に謳い継がれるとともに、恵迪寮同窓会が今後も益々実り多く発展されることを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

【ご挨拶】



同窓会の横糸と縦糸を 紡いで行こう！

恵迪寮同窓会代表幹事

白浜 憲一

(S40年入寮)

会誌本号で詳しく報告があるように、昨年9月に「入寮50周年の集い」(京都・宇治市)、今年3月に「入寮30周年の集い」(支笏湖・丸駒温泉)が開催されました。同窓の横糸が1本1本編み込まれ、会としての厚みが増してきました。同じ時代、同じ空間、同じ釜の飯を食った体験は、同窓の記憶の中に深く刻み込まれています。「やあー、久しぶり」と挨拶した瞬間に「あの時代」にタイムスリップし和気藹々になれる仲間は私たちにとって掛け替えがない存在です。

また、縦糸となる〇〇地区恵迪会は、北海道に7地区、東日本に3地区、西日本に1地区結成され、ほぼ毎年寮歌祭を開催しています。先輩、後輩が顔を合わせ近況を報告、確認し合い、ともに寮歌を高吟することは年に一度の「生きる力のリセット」の良い機会となっています。

我が同窓会の「恵迪精神の発揚」と「寮歌の継承」の二本の芯柱を支え発展させるために、重厚なペルシャ絨毯のように、この横糸と縦糸の一本一本を太くし丁寧に編み込んでいきましよう。

【ご挨拶】



「ひとは石垣、ひとは城」

北海道支部長

内藤 春彦

(S40年入寮)

本会への新規入会者が少なく、これを打破しようと、氏平前支部長時代から卒業生の名前の公表を恵迪寮側に申し入れてきた。しかし、個人情報保護の見地から寮側は難色を示し、個人の自発的な入会を期待するしかないのが現状である。昨年は3月の退寮手続きの際、同窓会入会案内をしたところ、20数名の入会を得ることが出来た。そこで今年には年明け草々から各部屋の郵便受けに同窓会案内を入れ、退寮時に連絡先を記載するよう要請した結果、35名が新住所を通知してくれた。だが、卒・退寮は年間を通じて100名を超えることから寮生に対する呼びかけをより頻繁に行い、方法もさらに工夫が必要である。

本部事務局がこの4月、ラルズビルからクラーク会館に移った。長年、同窓会の事務局を担ってきた佐藤静子さんも引き続き新体制の下でアドバイスしていただけるとのこと、実に心強い。

今年の寮歌歌始めの会には小樽商大の寮・応援団OBも参加してくれた。両大学は歴史的に長い交流があり、とくに応援団は寮歌継承の中核にあることから、特別なこだわりもなくごく自然にとけ込んでくれた。

地区恵迪会では、いつものように各地区のOBが声かけをして寮歌を歌い、旧交を温めて来た。入寮経験のないOBも集まることをみれば、寮歌の持つ力がどれほどかを思い知らされるだろう。さらに活発化していきたいものである。

【ご挨拶】



後世に伝えるべきこと

東日本支部長 坂倉 雅夫

(S44年入寮)

東日本大震災から4年が過ぎました。古代から近代にかけて大津波の教訓が忘れられたことも被害を大きくした要因の一つと言われています。今年20年目を迎えた阪神淡路大震災も同じことが言えます。地震・津波自体は天災ですが、備えを怠った結果の被害は人災です。特に甚大な災害の教訓はきちんと後世に語り継がねばならないと痛感します。

また、終戦から70年目を迎える太平洋戦争では日本が加害者と被害者の両面を持っています。いずれの側にしても戦争とは悲惨で、得るより失う方が圧倒的に多いものです。戦争の体験者が年々減少していく昨今、戦争とは人間の最も愚かしい行為であることを、永遠に伝えなければならぬと考えます。

転じて我が恵迪寮寮歌は、実に100年を超える歴史と伝統を連綿と歌い継がれて来ました。その時代の若者が心情や思いの丈を精魂込めて作り続け、歌い継いで来た寮歌は、まさに先人の貴重な世界の「文化遺産」と言えます。当支部でも寮歌を歌い継ぐべく、昨春秋には、茨城・水戸市で「恵迪寮大寮歌祭」を開き、地域の同窓生と寮歌を放歌高唱しました。今後も各地域の恵迪会寮歌祭に参加、支援していくほか、小規模ながら「新春寮歌歌い初め」「草刈り寮歌祭」等の場を通して、我が寮歌を後世に伝えていく所存です。

【ご挨拶】



支部長就任の心意気

西日本支部長 植松 高志

(S44年入寮)

昨年9月、京都市で開催された「恵迪寮同窓会西日本大会」総会で、伊藤前支部長から大役を引き継ぎ、就任に当たって①恵迪寮寮歌の伝承②開識社の精神を伝える③恵迪寮OB、特に若い仲間を増やすの3点を支部活動の支柱にしたいと話しました。

①の「寮歌の伝承」ですが、寮歌集の「序」に橋本左五郎先生が「夫れ詩歌は発動せる意思及び心情の結晶にして人生の小記録なり。」という名文や、有島武郎先生が恵迪寮生諸兄と題して「恵迪寮は幾百幾千の人の若盛りの記念碑です。(以下略)」というメッセージを残しています。明治40年から連綿と寮生の手で作詞・作曲されてきた恵迪寮歌。中でも「都ぞ弥生」は北大OB、現役学生の集まりや行事で必ず歌われる、まさに北大のアイデンティティです。我々はその良き伝統と文化を継承するため先頭に立つ決意です。

②の「開識社」も寮の価値を高める一つです。その精神の源は札幌農学校で学んだことをいかに世の中に役立てるか、お互いに論じ合うことでした。昨年の西日本大会「開識社」では、プロ野球審判員の山崎夏生氏(S54文卒)が北大野球部で培ったことをベースに波乱に富んだ人生を語り、感動を与えてくれました。

③の「会員の増強」は、同窓会活動を活性化する上で重要なことです。本部名簿委員会のご努力で充実した名簿を活用して当支部の会員拡大を図りたいと思います。高齢化を打破するためにも、若い方の入会に力を入れたいと考えています。

「恵迪寮歌空白（欠番）年の真相」

編集委員会編

昭和、平成年間に5回も

明治40年の「一带ゆるき」以来、毎年作詞、作曲され、歌い継がれてきた恵迪寮歌。その数は年度寮歌だけでも100曲をゆうに越え、寮歌の継続、伝承は、恵迪精神とともにOBの誇りである。

ところが、最近の寮歌集を見ると、昭和年間の29年、31年、63年の3回、平成に入って6年と13年の2回、合わせて5回も寮歌が欠



旧制から新制移行で寮は混迷するが寮歌は歌い継がれてきた

落しており、その理由は、当時の関係者を除いてほとんど分かっていない。とくに半世紀以上も前に起きた昭和29年と31年の空白に関しては、鬼籍に入ったOBも増え、当事者の間でも記憶から薄れようとしている今、過去の寮歌集をはじめ、寮歌普

及委員や寮歌作詞・作曲者らの回想録、寮歌集資料などからその真相を探ってみた。

旧制から新制移行で寮歌混沌

昭和20年代後半は、戦後復興がようやく軌道に乗り始め、恵迪寮でも旧制予科から新制大学への移行が進んだ時代である。この間、朝鮮動乱が発生、イールズ事件や恵迪寮の桜星会が全学連に加盟し、さらに大学自治をめぐる学内情勢は険悪化するものの、寮歌と寮歌集は曲がりにも制定、発刊されてきた。

寮歌欠番に繋がる兆しが見え始めたのは、前年に北大予科が廃止された昭和26年、初めて新制寮生の手によって発刊された寮歌集である。巻頭に従来からの橋本左五郎・有島武郎の他に、前年に就任した島善隣学長の序を加え、校歌を付録に移した。さらに昭和17年の大東亜戦争頌歌「あますなく拓きゆく道」の1番から4番までと、昭和19年寮歌「雪解の榆陵に」の4番と5番の歌詞を空白にするなど旧制との決別を図るかのように全面改訂を行っている。歌詞を空白にした部分は、先の大東亜戦争に言及したという理由であろうが、寮歌集発刊の辞に「昭和23年版に準拠した」と記載しながら、23年版では「あますなく拓きゆく道」と「雪解の榆陵に」も全歌詞を掲載していることから、寮歌と寮歌集について議論が沸騰した可能性が高い。

寮委員会の活動停滞も一因

続く27年は、住民登録阻止事件で警官隊が寮を包囲した

り、多数の赤痢患者が発生するなど寮の生活環境が極めて悪化したため、26年度寮歌「新たな天地」を掲載したものの、27年寮歌の募集ができたかどうか疑わしい状況である。

そして欠番問題が顕在化したのが昭和28年である。この年の寮委員会日誌に「昭和28年12月15日に寮歌祭を開催、併せて27年寮歌の作曲と28年寮歌の募集を行う」と、欠番の遠因を示す記述がみられる。この時点で27年寮歌「永遠の水のひろがり」は作詞のみで曲は出来ておらず、また28年寮歌はまだ着手していないことが分かる。この「永遠の水のひろがり」は、昭和29年版の寮歌集に掲載されるため、前記の公募によって翌春に制定できたことが分かるが、この時点で1年遅れになっている。

当時の寮委員長や寮歌選考委員の証言が得られていないため、あくまでも推論だが、この27、28年に寮を取り巻く環境悪化で、寮歌に対する寮委員会の活動停滞や消極的な姿勢が後の寮歌欠番につながったという見方が強い。

続く昭和28年寮歌「手をとって美しい国を」（以下・手をとって）は、前述の通り28年12月15日に公募され、手順として27年寮歌「永遠の水のひろがり」制定後に、山本玉樹君が詞を応募したものの、同年内に曲がつかず、昭和29年入寮の三河勝彦君が曲を応募したが、当時の歌声運動の流れを汲んで寮歌らしくないという批判的な意見もあり、次の年の選考委員会でもようやく選定され、2年遡って28年寮歌に収まったという。

欠番を出さないために苦慮

欠番を生んだ問題の29年だが、寮歌委員会は、従来の流れを継承し、前年末に公募された「永遠の水のひろがり」の作歌を受理して寮歌に選定、寮歌集に追加し刊行し、次の昭和30年寮歌の公募を始めている。したがって、27年寮歌の制定と30年寮歌の公募を行って寮歌委員会としての義務を果たしたが、前2年のあおりを受けてみずからの年次を欠番とせざるを得なかったであろう。

昭和30年の寮歌委員会は、課題として引継いだ昭和28年寮歌の公募を担当し、「手をとって」を候補とするものの異論もあつて寮歌制定を見送った。そして前年度委員会が29年度の欠番を決断し、昭和30年寮歌の公募を開始したものの、前者の検討に時間を浪費したため、すべてを次期委員会にゆだねることになった。その31年度寮歌委員会は、継承した28、30年寮歌の制定に専念させられ、ようやく昭和32年寮歌集に「手をとって」と「悲歌に血吐きし」の両曲が掲載できるようにした。

思想対立の中にも信頼関係

委員会が寮歌公募を躊躇したり、積極的に動かなかった背景に左右のイデオロギーやグループ間の対立も見逃せない。制定をめぐって2年間に翻弄された「手をとって」の選考過程で寮歌選考委員の一人は「伝統的な寮歌とは認めがたく結局、選定しないまま委員会は解散した」と述懐し、イデオロギーの対立があったことを示唆している。また、

作曲者の三河君は「自分は29年入寮なのに28年寮歌はあり得ない。入寮した年に前年に作った山本玉樹さんが前年に作った詞があり、曲を付けただけ」と、東京えるむ会編集「都ぞ弥生」に寄稿、制定年度の曖昧さに疑問を投げかけている。

ただ、当時、寮の雰囲気として、昭和30年初頭、寮歌選定に関わった一人は「寮の対立は後の全共闘世代の派閥抗争のような陰湿さはなく、両派の間には一定の信頼関係が成り立っていた」と話し、寮歌制作者の一人も「このような曖昧な関係、つまり寮歌制定に決着を付けないというある種の妥協が寮歌欠番に繋がったとする指摘が真相に近いだろう」と解釈している。

その後も、欠番を出さないため寮歌の制定年を繰り上げたり、下げたりする異常事態が続いたが、31年寮歌を欠番にして以後、正常化を図ったとされる。

入寮選考をめぐる混乱

次に、昭和最後の年、63年寮歌の欠番問題である。

この年の秋、昭和天皇が重篤な病気に倒れ、翌64年1月7日に亡くなられた。

このため、高貴な人の死を悼み、歌舞音曲を慎むりようあん 諒闇の諒闇が一般的とされてきたが、リベラルかつ寮歌の伝統を守り続ける恵迪寮生がそんな理由で自粛するとは思えない。63年前後の寮歌制作者に尋ねたところ、当時の寮歌普及委員長から貴重な回答が得られた。

「63年は歌詞の応募作が1点だけありましたが、誰も曲



恵迪寮玄関ホールにびっしり掲げられた応募寮歌（平成26年11月）

を付けずにその年度は終了。本来なら第80回記念寮歌も作るはずでしたから、2曲続けて欠番になったわけです。寮歌に対する熱意が委員会の情報宣伝力不足や寮選考をめぐるごたごたが続き、寮生のいい加減さに原因があったと思います」と、反省に満ちていた。

当時の寮内情勢として新々寮に移行してまもなく、入寮選考をめぐる寮委員会と大学当局の対立が激化し、63年度の入寮選考は寮委員会と大学当局の双方が実施したが、定員の半数にも未たず、寮歌どころの話ではなかったというのも原因の一つとされる。

平成6年の欠番は、寮歌の選定方法をめぐってごたごたが続き、結局流れてしまふ、昭和63年、平成13年に見られたパターンとよく似たケースである。

寮歌普及委員の有志が記した『寮歌珍報』によると、そ

の子兆は、寮生の日常生活をユーモラスに歌った平成5年寮歌「今日の歌」にあるという。今でこそ人気のある寮歌の一つだが、当時はやや軽薄なフレーズで寮歌らしさに欠けるといふ批判が相次いだ。

そこで、翌年から有志による全寮生投票を止め、寮歌普及委員会の管理下、直接選定する方式を採ったものの、寮生の同意を得られず、候補作もなく、欠番を余儀なくされたという。

悲しみを乗り越えて寮歌制定

これについて、悲しい後日談がある。「こんな調子では寮歌がすたれてしまう。皆が納得できる寮歌を作ろう」と在寮中、全寮歌を暗唱していたという宇野直茂君が「六華ぞ窓に」を作詞し、平成7年9月、選定された。ところが、その1週間後に開かれた「水産追いコン」で、「六華ぞ窓に」を一番気に入っていた前年の寮歌選定委員長が飲酒事故で亡くなった。その後、歌詞も決定したものの、寮自治会は1年間の活動自粛を決め、伝統の寮歌祭もこの年は中止になった。寮歌も一時は2年連続欠番になるところだったが、「明治から連綿と続く寮歌制定は例外である」として、平成7年の寮歌として認められた。

最後に平成13年の欠番は、この頃再び蔓延していた寮歌に対する無関心さや寮執行委員会の怠慢さなど寮歌のどん底の時代がもたらした結果であろう。寮歌選定委員の人選や募集要項の発表など執行委員会の方針がなかなか決まらず、タイムオーバー。締め切り後に2作品の応募があった

ものの、投票などの準備態勢が整わず、結局新年度を迎えてしまったという。

寮歌応募 今は百花繚乱

その後、「寮歌の危機」に目覚めたのか、平成14年以降は応募数が徐々に増加、昨年は作詞、作曲合わせ11点と、寮歌史上最多のエントリーがあった。

昭和20年代の欠番は寮歌に対する考え方の相違、思想信条の対立も多分に影響したかもしれない。また、昭和から平成にかけての空白は一部現寮生にありがちな寮歌に対する無関心さや、音楽的表現の時代的变化も見られる。

連綿と続いてきた恵迪寮歌が一時的に途絶えたことは、はなはだ残念ではあるが、今なお、後輩たちがもがき苦しみ、かつ青春を謳歌しながらも寮歌制作を続けているのを見る限り、札幌農学校を嚆矢とする北の学び舎に一時期を過ぎた我らにとって、「寮歌は永遠なり」と、叫ばずにいられない。

〈編集部注〉

この記事は、寮歌史に詳しい高井宗宏君（S31）、前島一淑君（同）現寮生我如古弥司君（H22）の資料提供を基に、大隈昭二が編集しました。

寄稿

思い出の恵迪寮

「我が青春に食いなし」

能勢 誠夫

(S21年入寮)

始めに

私は、大正15年生まれで昨年、満88歳の米寿を迎えた。

いずれ、老い先はそれほど長くないので、米寿を機に一念発起して諸々の会合に出来る限り出席することにした。

手始めに昨年、狸小路ライオンで開催された「恵迪夏祭り」に出席した。

昭和21年入寮の私は、「絶滅危惧種」のように見られた。参加者の皆さんから思わざる厚遇を得て大いに気を良くし、思い切り寮歌を唱った。

これに味をしめて、今年1月の「新年歌始めの会」に初めて出席した。案の定、昭和21年入寮の私は参加者名簿のトップである。後輩、現役の諸君と共に寮歌

を高唱しているうちに、およそ70年前の恵迪寮3年間の生活が脳裏に鮮明に浮かんできた。

敗戦の翌年入寮、その後の寮生活は極端な食糧難時代で寮生は、何時も飢えていた。その頃、絶世の美女、原節子、有島武郎の息子、森雅之が主演で、黒沢明が監督の「我が青春に悔いなし」が評判で、なけなしの財布をはたいて観た寮生も多く、誰言うともなく、飢えに悩むわが身になぞらえ、「我が青春に食いなし」が流行語となった。私の寮3年の思い出も「食」に関することが多く、飽食の時代に寮生活を過ごした後輩諸君にいささか参考になればと、思い出を書いてみる。

白い大きなコッペパン

当時、我が国は占領下にあり、市内の目ぼしい建物はほとんど進駐米軍に接収されていた。一方、速やかな接収解除のため、真駒内地区に米軍キャンプの建設が突貫工事で行われていた。早朝、大学構内に工事用トラックが入り、学生アルバイトを満載して真駒内に向かった。このアルバイトの魅力は昼飯時に支給される白い大きなコッペパンで、これを目当てに授業をサボった寮生も多く、私も何度か参加した。寮ではアルバイトに行く寮生に前日の晩、昼食分として小さな握り飯を2個支給した。翌日のコッペパンを当てにして2個の握り飯はその夜のうちに腹の中に……。翌朝、寝坊して仕事にあぶれると悲劇である。昼食は前夜のうちに食べてしまい、夕食まで空腹を抱えて悶々とした



昭和21年、恵迪寮記念祭におけるストーム、左から2番目が筆者

苦い体験を悪夢のように思い出すことがある。

学校を出て私は農林省林野庁に入った。任地を転々とした後、昭和56年、札幌勤務となり、所用で真駒内の自衛隊第7師団長を訪ねたことがあった。寮生の時、アルバイトした半地下の兵舎が残っているのを見て、師団長にかつてコッペパンにひかれてキャンプ建設工事に携わったことを語ると、師団長は「今も当時の兵舎の一部を倉庫として使っています。あなたが建設工事に関わったのも何かの縁ですね」と会話が弾んだ。

大根抜き

飢えに悩まされつつも、30人の寮生が生産する尿尿は、化学肥料がほとんど手に入らないその頃、周辺の野菜農家の貴重な肥料源であった。寮の尿尿を引き取った農家からは秋になると大根などの野菜が届いた。昭和22年

秋、農家が所属する農協から大根収穫のアルバイトの求人申し込みがあった。条件は、1週間農家泊まりこみと、三食白米つき。三食白米の魅力にひかれ、私は友と二人、夫婦、子供3人の農家に泊り込んだ。太く、重い大根の収穫作業は思ったより重労働であった。収穫した大根は主人が馬車で札幌市内に出荷するのであるが、需要期が過ぎると価格が下がるので夫婦は必死であった。

朝は夜明けとともに叩き起こされ、夜は満天の星を仰いで帰宅するという日が続いた。小学6年の女の子が夕食の支度をするという、一家挙げての働き振りに、私達も一生懸命働いた。お目当ての白米をやけ食いと思われるほどしっかり食べたのが、強烈な労働に対するささやかな抵抗であった。最後の積み出しが終わる、現在の新琴似駅から麻生を経て北18条の寮まで歩いて帰った。農家の主人は「本当によく働いてくれた。農協が決めた賃金のほか、私達の気持だ」と言って、特別手当をくれた。

今はこの地域一帯住宅地が変わってしまったが、当時は市電の終点、北18条から北はほとんど住宅がなく、帝国製麻の亜麻畑が広がっていた。友と二人波打つ亜麻畑のはて、手稲山に夕陽の沈む光景を、寮歌を唱いつつ眺めたのが印象に残っている。

練の力

入寮は昭和21年9月だった。ラグビーに所属し、同室、同期には福島県出身の金沢利輝君だった。私たち二人はそれまでラグビーにまったく無縁だったが、入寮時の先輩の巧妙な勧誘で、ラグビー部に入部しないと入寮できないような口ぶりに騙され、入ってしまった。しかし、入部した以上はと、真面目に練習に取り組んだ。毎日、午後3時から5時までの空腹を抱えての練習は、いわば若者の人格形成の「行」にも似て厳しいものだった。我々2人は体力も運動神経も人並み以下で練習の終了する頃は疲労困憊。練習の締めくくりにキャプテンが高く蹴り上げる楕円球を全員で追いかけるオールメンダッシュでは、二人ともいつもドン尻であった。楕円球の扱いに慣れ、ラグビーの面白さが解り始めた頃、長い長い冬休みに入った。冬期暖房用の石炭が確保できず、予科在学中の冬休みは12月半ばから翌年3月一杯であった。春に練習が再開され、人材不足のラグビー部では未熟な我々もレギュラーとなり、樽商戦、インターハイの二高戦（仙台）に備え練習に熱が入った。

相変わらずオールメンダッシュは二人ともドン尻だったが、ある日気がついて見ると、金沢君が風を切つて先頭を走っているではないか。びっくりして「どうしたのだ」聞くと、「サボって街に出て、練の丸焼きを一匹食べたなら不思議に力がついた」という。金沢君は

何時も岩波文庫で難しい哲学書を読み、時に訥々とした東北弁で人生論を語る、愛すべき東北人であった。

「金沢、練で走る」の話はたちまち寮中に広まった。その年、札幌近辺の銭函、小樽、余市に練の群来があり、札幌市内に広く練が出回っていたのである。寮生は、街で練を食べ、生練を購入しては渦巻型電気コンロで焼き、寮中が煙で霞むようになった。皆が練を食べるようになって金沢君の神通力も薄れ、私と再びドン尻をつとめたのである。札幌近辺の練の群来はその年が最後で、昭和31年頃、稚内近辺に群来した以降、石狩挽歌のようにへどこえ行つたやらとなった。

野荒し

秋も深まる頃、期末試験が近づいた。日頃の不勉強がたたり、徹夜しても間に合わない寮生も少なくなかった。腹が減つては戦に勝てないで期末試験に備えての食糧確保が問題であった。寮の周辺は「豊かに稔れる」大学農場で、馬鈴薯がふんだんにあった。

「寮生は、大学の子供である。腹一杯食べしつかり勉強して好成绩を上げるのは親の望むところである。しかし、食糧統制により、大学は生産物を自由に出来ないジレンマにある。ならば、我々が秘かに生産物を寮に移し、期末試験で好成绩を挙げるのは大学の望むところであろう」と勝手に「野荒し」を正当化し、寮生は大挙して大学農場にアタックをかけたのである。お目当ては、収穫し、農場内に点々と野積みされ



新年歌始の会に初めて出席（左から2人目）

た稲藁で覆われた馬鈴薯の山であった。夜遅く誰が叩くのか太鼓が鳴り、リュックを背負った寮生が三々五々農場に向かい、農場を照らすライトは、軍事教練で鍛えた匍匐前進でかわし馬鈴薯をリュック一杯失敬したものである。

さて、食糧は確保したもののその調理が大変だった。渦巻型の電気コンロと小鍋では、1時間かけて、いも5、6箇所か茹で上がらず1室5人、1人1個では空腹を刺激するだけで、結局、いもゆでで徹夜したという。一方、中庭に石でかまどを築き、大鍋で大量のいもを茹で上げた連中は、満腹し、「いざ勉強」と張切ったものの満腹による睡魔に勝てず朝まで爆睡したという。かくして「野荒し」は当初の崇高な目的に程遠い

結末となった。し

かし、「野荒し」が

寮生の健康保持に大いに役立ったこととは言うまでもな

い。同期入寮で応援団長をやり、後

年、苦小牧市長や道議を5期務めた

故板谷実君は口ぐせのように「あの

頃の「野荒し」で俺達は生き延び

た」と語っていた。

鯨のステーキ

予科3年の昭和23年、生活部委員になった。担当は食糧の管理、炊事場6人の従業員管理、監督であった。主食は配給制だったが、遅配が1か月に及び、米、麦のほかカロリー計算による種々雑多な食糧が配給になった。ある時、2人でようやく運べるほど大きな麻袋に入った砂糖「黄ザラ」が主食として6袋配給になり、活用法を考えている時、公開記念祭の開催が決まった。寮生の全面協力が必要で記念祭の最後を飾る晩餐会には「手稲の白雪」「藻岩の緑」の定番のほか、寮生があつと驚く豪華一品を加えようということになった。当時、文類3年に在学していた、大洋漁業・中部一族の御曹司、故中部藤次郎君に尽力してもらい鯨のステーキを出すことが決まった。

一方、持て余し気味の「黄ザラ」は、大学正門前の菓子舗・中屋で小豆と交換してお汁粉を作り、寮の食堂で記念祭に会場した一般市民に振る舞った。「甘い甘なお汁粉」は甘味に飢えていた市民に大好評で、来場者は引きも切らずのありさまだった。その売り上げ代金で豪華一品の鯨のステーキをまかされた。厄介者の黄ザラの活用に道を開け、晩餐会のステーキに歓声をあげる寮生達に感無量であった。

おわりに

へ若き二十のころなれや、三年がほどはかよいしも、
酒、歌、煙草、また女、外に学びしこともなし

詩人の佐藤春夫が大正浪漫時代、三田（慶応）に学んだ頃を懐古した詩の一節である。自由奔放な学生生活がわかる。

さて、我等の寮生活は生きんが為の「食」の確保が最優先だった。酒、煙草は配給制で成人にしか手に入らず、女は色気より食気であった。彼女からラブレターが来る友人は寮中知らない者がいない有名人で羨望の的だった。唯一寮歌は空腹を紛らわすため、事あるごとに唱われた。夜、どこからともなく寮歌が聞こえてきた。野荒しで獲得したいもを中庭に築いたかまどで茹で、茹であがるまで車座になって寮歌を唱ったのも懐かしい思い出である。

「都ぞ弥生」は別格として、入寮した年の寮歌「時潮の波の」を始めとして20曲程、70年たった今も暗記で唱える。夜、風呂に入りゆったりと寮歌を口ずさみ、最後に「いざ我が友よ熟睡せん、明日は人生の旅なれば」と唱い、古い先短い人生を楽しんでいる今日この頃である。

（札幌市東区）

学兄・伊沢久夫君を回想する

藤倉 孝夫

（S 27年入寮）

クジラ・イルカ養殖の先駆者

アテネから搭乗した飛行機はエーゲ海の明るい西日をうけてジュネーブへと飛行を続けていた。機内でシャンパングラスを傾けアテネでの仕事のことなどを思い出しながら機内で配られた International Herald Tribune 紙に眼を通していたところ、科学欄のほぼ1ページを使って世界の鯨問題についての記事が眼にとまった。自然保護、海洋環境・資源の保全、種の保存、鯨の生態、などの格調の高い論説が密度の高い英文で論述されていた。主要な論点の一つに「Hokkaido University, Veterinary School Prof. H. IZAWA がイルカや鯨の養殖に向けて壮大な研究計画を遂行しようとしているが、この分野の研究は世界の海洋資源の保護にとり重要であり大いに期待される」と述べられていた。早速この新聞の copy を彼に送ることとした。当時筆者は国連専門機関のひとつである世界保健機関（WHO）で上席公衆衛生管理官として地球規模での人と動物の感染症対策や環境保全などの課題を担当していたので、早い機会にこの問題について伊沢学兄と

話をしたいと思いきやにしていた。しかしながら、留守中にジュネーブの拙宅宛に届いていた邦字新聞の海外版に伊沢学兄の訃報の記事を認め、これにより彼との交信や再会の機会は永遠に閉ざされてしまった。

50歳代の若さで、このように壮大な計画に大志を燃やしながらか健闘していた彼の心情を思うと20年あまりを経た現在に至るも慙愧に耐えない。純白の雪をいただくアルプスの峻厳な雪山のはるか彼方へ去っていった伊沢久夫学兄への哀惜の念をいまなお禁じえない。

さて、生前の伊沢久夫学兄のプロフィールを述べるならば、彼は東京都立の進学校から慶応大学経済学部へ進学したが、思い直して1年後に北大へ入学し、恵迪寮へ入寮してきた尊重すべき変り種であったとも言える。教養部ではフランス語を選択し、狂犬病の病毒発見や、炭疽の研究とそれらのワクチン開発などに功績の高いパスツールを尊敬し、フランスの獣医学に大変に興味を示す勉強熱心な好青年であった。彼はまた、当時の進歩的な社会的思想にも柔軟に興味を示し我々をも説得するような力量をもそなえていた。彼はまた昭和28年度の前期であつたらうか寮の委員長に選ばれ、寮内外の様々な困難な問題にも手際よく対処した。やがて彼は躊躇なく獣医学部を志し、進学した。優秀な成績で卒業後、北里研究所へ就職し、ウイルス学者の道をすすみ豚コレラの研究やワクチン製造の任を全うした。

恵迪寮で培ったグローバルな視点

卒業後、我々同期生の中で最も早くフルブライト留学生として米国カリフォルニア大学獣医学部への留学の機会に恵まれた。留学先では豚エンテロウイルスの発見とその研究に没頭し、国際的にも評価の高い成果をあげ、帰国後、未だ20歳代の若さで日本獣医学会賞と獣医学博士号に輝いた。彼の学生生活は益々充実し、北里大学の教授から40歳代の若さで母校北大獣医学部の家畜伝染病学担当の教授に就任した。

彼は人材育成にも尽力され、氏の教室からは多くの優れた科学者が輩出した。これらの科学者の中には彼の教室の助教授を務め、東大教授から内閣府の食品安



ソフトボール大会の後、研究室の学生に囲まれてVサインする在りし日の伊沢教授（中央）

全委員会の初代委員長として海外から侵入し牛肉を介して人にも伝播される「牛海綿状脳症」(BSE) 根絶対策など重責を果たされた見上彪博士がおられる。伊沢学兄が生涯を通じて発揮されたグローバルな視点に立ったスケールの大きい活躍と業績は明

確に恵迪寮での生活から培われた Boys be ambitious の精神と自然と人類愛への確固とした精神に支えられ 発展させた輝かしい成果であった、と確信している。

(さいたま市浦和区)

「燃えなん我が胸」五十有余年

歴代の名寮歌に寄せて

平良 健康

(S 37年入寮)

津軽の蒼海の

昭和13年の寮歌、二階堂孝一君作歌、高橋寛君作曲「津軽の蒼海の」を愛唱すると、夜霧の青森駅の長いホームが髣髴としてくる。我先に急ぐ足で青函連絡船に乗り込もうとする人々に混じって青春の旅人一人。はるばる沖繩から鹿兒島へは一夜の船、それから日本列島を蒸気機関車で日に夜を継いで北上、終着駅青森。津軽海峡を渡り札幌駅についたのは4日目であったか。昭和37年早春、残雪の恵迪寮玄関に着いた日の解放感が忘れられない。当時沖繩は米軍占領統治下にあり米国高等弁務官の発行するパスポートの査証をうけて「出域」したのであった。高校の校庭からは米国民政府庁舎に威圧的に星条旗が翻っていた。キャラウエイ高等弁務官は「自治権は神話なり」と公言し自治権

要求運動に強硬姿勢をとる一方、頻々と軍用機の民間地域墜落事故で死者を出すなど世は閉塞感に包まれていた。しかして青春の旅人は「アカシアの白花散り敷く夕べ、白銀の月仄かに浮かぶ、牧場添いの野路逍遙ひゆけば、羊の群は声なく去りぬ」の自然賛歌に真の自由な心の尊さを感じたのであった。

平成27年は終戦70年に当たる。そのうち27年間は沖繩の米軍統治期間であったが、全国の米軍基地の74%は今なおこの地に存在し、新基地まで建設しようとしている。地元紙は境遇が似ているスコットランドの独立投票を詳しく報じた。

春まだ浅き

昭和12年記念祭歌、平城鷹雄君作歌、宍戸昌夫君作曲「春まだ浅き」は恩師の思い出に繋がる。医学部第一外科教室で小兒外科を学んでいたときの恩師が故内野純一先生である。沖繩に県立病院が新設され小生が赴任したが母校の外科教室から多くの医師の応



昨年秋の同窓会西日本大会で放歌高吟する平良君(右端)

援を受けた。内野先生はその指導にあたられたが離島
県沖繩の医療事情を理解されその姿勢は終生変わらな
かった。札幌から沖繩を訪問されるときは北大の近況
や恵迪の杜の自然に話題が及んだ。「春まだ浅き白楊
の 雪解の小路たたずめば しばし聞けとて私語（さ
ざめき）の 木の間もれくる夕嵐」を私が歌うと喜ば
れた。抒情流れる曲は口ずさむほど心に沁みていく。
学部講義では宍戸昌夫共著公衆衛生学テキストで学ん
だことを思い出す。車椅子のお元氣な宍戸先生に「都
ぞ弥生」百年記念祭の会場でご挨拶申し上げた時は感
無量であった。

燃ゆる生命のかがり火

沖繩には雪降りの冬はなく、1月、2月の平均気温
は16度。古希を過ぎつつ朝の7000歩、近くの奥武
山公園を漫湖の湖水を見ながら季節の変化を友に歩
く。歩きながら寮歌を黙然と歌う。恵迪寮歌には「か
がり火」を歌う場面がいくつかあるが、その微妙な味
わいを反芻する。大正12年「春雨に濡る」第三節「焚
火を囲み歌ふ寮歌 紫紺の闇に解けて行く」は野宮の
趣。昭和6年「別離の歌」第二節「燃ゆる生命のかが
り火に……強く正しく友よ生きなむ」は青春の熱い友
情。昭和10年「噫妖雲は」第六節「月影淡き楡の陵
……篝火焚きて我は今 静かに宵を誦わなん」には暗
雲の時代を予見する静謐がある。

都ぞ弥生

外科医として救急医療に明け暮れていた昭和のある
日、沖繩県庁から電話があり、環境、保健医療、福祉
の分野の行政を担当する辞令をうけた。離島久米島に
病院を開設、看護大学を開学、県立病院の統合など懸
案に取り組む。そしてG8サミットが2000年に沖
繩で開催され、県として救急体制、食品安全を担当す
る。JICA国際協力事業ではボリビア、メキシコ、
大洋州など保健プロジェクトに関わるなど医療と行政
をつなぐ現場に身を置いた。今は重症心身障害児者の
医療にたずさわっている。振り返れば「燃えなん我胸
想ひを載せて」にいつも背中を押されて歩いてきたよ
うな気がする。三年廻りの京都での西日本支部の会
は心ゆくまで寮歌を歌う。「沖繩寮歌・校歌の祭」が毎
年2月下旬に開催される。「都ぞ弥生」の幟を掲げて
北大エルム会関係者、愛好者とともに「都ぞ弥生」を
高唱する。若い世代の参加が増えてきたのが嬉しい。
現在も進行形で恵迪寮歌が生まれていると寮歌集を
見せると人々は驚嘆する。寮歌は癒しの歌、オトナの
子守歌なのかも知れない。

賛歌

北国の原始の杜の初雪に 心馳せつつ寮歌を歌ふ
春浅き原始の杜の古き寮 ひびく鐘の音今も聞こ
ゆる

寮歌うたひよみがえり来る石狩の 春の野面（の
ずら）に立ちし若き日
アカシアの原始の杜を慕いつつ 寮歌うたひて古
希を過ぎゆく
人生に秋暮れありと心せず 生命のかがり火寮歌
を歌ふ

若夏堂
（沖縄県那覇市）



大寮歌祭にはいつも奥様を同伴（昨年9月の京都大会で）

祝 北海道大学合唱団創立百年

金 武彦
（S 37年入寮）

はじめに

百年前の北海タイムス（大正4年2月14日・マイク
ロフィルム）に、「洋々たる演奏会 農大娯楽（注…グ
リー）倶楽部の公開」という見出しで東北帝国大学農
科大学グリークラブ第1回音楽会が紹介されていま
す。

佳節（注…紀元節）を卜し図書館に於いて開催され
た演奏会には同学教官学生来賓約三百五十名が列席。
佐藤学長は挨拶の中でグリークラブの来歴にふれ、更
に西洋音楽につき講演。音楽会は予科教師ポール・
ローランド氏のピアノ演奏から始まり、全体として二
時間半に及んだ。記事は次のように結んでいます。
「会衆一同カレッジ・マーチングソングを一律斉唱し、
司会の閉会の辞にて午後三時半閉会したり」。

北大合唱団では、新制大学となって最初に開催した
昭和27年の発表会以来、その嚆矢を昭和2年としてき
ました。昭和40年には、札幌市史（文化社会篇）にて
「大正4年、予科教師のローランドを中心に結成され

た」との記述を見出し修正しましたものの、それ以上の情報を持ち合わせておりませんでした。

創立百年が論議され始めた2008年、北大合唱団の事始めを詳しく知るべく、私は札幌市中央図書館にて調査を開始しました。北海道帝国大学新聞（復刻版・大正15～昭和35年）、北大BBA「北海道の青春」、さつぽろ文庫「札幌とキリスト教」「札幌と音楽」「札幌のコーラス」、前川公美夫著「北海道洋楽の歩み」等を読み漁りました。

北大百年史（通説）「昭和57年発刊」の年表で「大正4年2月11日」「第1回音楽会」を確認。北大付属図書館で関連する資料を探したところ、札幌農学校以来発刊されてきた文武会会報74号（大正4年3月発行）に、A bystander氏から詳しく紹介されていることが判明しました。「この経験が、2011年1月、「都ぞ弥生」初版数字譜の発見に繋がります」

農科大グリーククラブ第1回音楽会

① 演奏曲目について

ピアノ演奏 ポール・ローランド

男声合唱 「The Prof. leads a charmed life」

指揮／ポール・ローランド

マンドリン合奏

男声合唱 ローランド、コラー、佐々木、森本先生他

男声合唱 「Ich kann sprechen」、「Student's Toast」

指揮／ポール・ローランド

ヴァイオリン演奏

バリトン独唱 ジョージ・M・ローランド
レコード鑑賞

「ハレルヤ・コーラス」、E・カールソーの歌曲

男声合唱 「Smoker's Anthem」

指揮／ポール・ローランド

ピアノ演奏 コラー夫人

男声カルテット

全員合唱 「College Marching Song」

指揮／ポール・ローランド

第1回音楽会は、男声合唱、バリトンソロ、男声カルテット、ピアノ演奏、ヴァイオリン演奏、レコード鑑賞と盛りだくさんです。即ち、男声合唱だけでステージを構成できるほど音楽文化は醸成していただいものの、西洋音楽を楽しむとすると意欲的な催しであったようです。演奏した合唱曲は、ポール・ローランド（1914／8～1917／7 予科英語教師）の作詞・作曲によるものようです。尚、ポールの父、ジョージ・M・ローランド氏は札幌組合基督教会（現在の日本基督教団札幌北光教会）の宣教師、妹ポーリンはハロルド・M・レーン氏とご結婚され、共に北大の英語教育に貢献されました。

② 農科大学 「Marching Song」について

第1回音楽会結びに全員で歌った「Marching Song」

は、恵迪寮歌集に掲載されています。寮歌集は昭和51年の北大創基百年の際、歌詞／水野 一氏、メロディ／川越 守氏により様々な間違いが見直され、大半は望ましい姿に戻りましたが、「Marching Song」は素通りであったため、今般音楽的に調整し、1番ユニゾン、2・3番を四部合唱で歌えるように編曲されています。1915年2月11日、図書館を埋めた農科大学の教師、学生、ご来賓約三百五十名にて、「Our motto, Be Ambitious, Boys, our guide, the North Star ever. Vive la Tohoku Noka Daigaku, forever and forever.」と高らかに歌い上げています。韻を踏む詞のリズムもメロディも、素晴らしい。

東北帝国大学農科大学「Marching Song」

Resolutely ♩ 4/4 作曲・作詞 Paul Lowland (1915)

1. Come all ye men of Sap-po-ro. Come
3. So when our col-lege days are o'er, and
sing our far-fam'd col-lege, Our
com-ra-des true must se-ver, These
hearts a-fire with high de-sire, we're
mem-ries old shall make us blood, to
here to share her know-ledge, By
meet each new en-dea-vor, Our
I-shi-ka-ri's migh-ty flood, with
mot-to, Be Am-bi-tious, Boys, our
moun-tains firm de-fend-ing, Give a
guide, the North Star e-ver, Vive la
cheer, cheer, cheer, for our mo-ther dear, her for-
To-ho-ku No-ka Dai-ga-ku,
(Broadly)
thou-sand sons be-friend-ing,
e-ver and for-e-ver,

③ 会場となった図書館について

昭和40年、付属図書館が新築されるまで機能を果たしていた中央図書館を、学生時代に利用された諸兄は多いと拝察します。農学部本館右陣と昆虫学教室との間に赤い屋根に二つの換気塔をのせ、鶉浅葱（ときあさぎ ベージュ）色の柱型や窓枠が漆喰壁に映える建築物です。昭和27年に農芸化学教室の1部を移築し前室としましたが、お互いに建築が明治35年ゆえ継ぎ足しの違和感はありませんでした。前室の新聞閲覧室、続く読書室、その奥に角柱で支えられた舞台があり、正面左壁にクラーク博士、右壁に黒田長官の肖像画が掲げられていました。大正5年、中央講堂が出来るまで、全学的な行事は図書館で行われたそうです。

昭和30年代末に教養部校舎が完成するまでの間、恵迪寮生は寮の食堂関係者がリヤカーで運んでくださる昼飯のおむすびを中央ローン付近ではおぼり、そのあと天井が高く、スズランのようなシャンデリアが下がる図書館読書室を至極のまどろみ処とする方が多くいらっしゃいました。参考 季刊リタラポプリ（2008/1）／北海道大学 北大歴史散歩／岩沢健蔵

④ Lofty Ambition 2015

数年前まで北大ホーム・ページに、P・ローランドがサンフランシスコ万国博覧会（一九一五年）パンフレット用に執筆した「東北帝国大学農科大学略史」が掲載されておりました。

“Boys, be ambitious!” Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for knowledge, for righteousness, and for the uplift of your people. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be. This was the message of William Smith Clark. (By Paul Rowland 1914/12)「青年よ大志を抱け。金のため又は利己的栄達のためにもなく、ましてや人呼んで名声と称する空しきものためにでもない。知識に対して、正義に対して、かつ国民の向上のために大志を抱け。人として、まさにかくあらねばならぬ全てのことを達成せんとするために大志を抱け。これは William Smith Clark のメッセージであった。」

札幌農学校の Marching Song 「永遠の幸」

明治34（1901）年、札幌農学校は創立25年を迎え、校歌「永遠の幸」が制定されました。作歌（作詞）は教鞭をとっていた有島武郎、メロディは、納所弁次郎がアメリカ南北戦争の際の北軍行進曲「Tramp, Tramp! Tramp!」を結びました。5月15日の北海道毎日新聞（マイクروفイルム）は、紹介しています。

『日のまだ暮れぬうちより、提灯行列を見ようと女子供が農学校前より町内の所要所に群集していた。軒下に提灯を出している家も多く、中々の賑わいなり。学校入口の大門をはじめ時計台演武場の窓々、その他

緑葉の飾りあるところには電氣をともし、庭の高竿より四方に幾百となき提灯をかけ渡しているため、四辺は眩くばかり。やがて七時半、八百余の職員学生は、竿の先に赤き球灯を結び北講堂前の広場に整列。真紅の燕尾服に高帽子を戴きたる総指揮者の号令の下、音楽隊を先に祝二十五年の文字なる数十本の高張提灯を押し立て表門から繰り出した。大波の打ち寄るが如き群集の中を、新作行進歌（注・「永遠の幸」）を勇ましく歌いつつ、北一条通を西七丁目、南に向かい大通を抜けて南一条通に出て東に向かい西二丁目、南二条通に出て西六丁目、南四条通を経て創成川を渡り：札幌神社拝礼所（注・北海道神宮頓宮）に至り君が代を斉唱すること三たび：』（現代文に調整）

式場となった演武場階上東側の壁には、中央に樹枝の大アーチ、その中に校章の五稜星、左右に黒田清隆とクラークの肖像、上方に赤い「Boys, be ambitious」の文字を飾っています。演武場のイルミネーションは、札幌で初めての試みであったそうです。

今年1月の恵迪寮同窓会主催「寮歌始め会」で、同志社大学ラグビー部応援歌が紹介されました。私たちは、「永遠の幸」と「若草萌えて」が、「Tramp! Tramp! Tramp!」の義兄弟であることを認識しています。

参考 写真集北大百年／北海道大学

明治45年寮歌「都ぞ弥生」

北大合唱団OB会第10回演奏会（2014年5月開

催)の結びの「都ぞ弥生」演奏は、多くの方の琴線に触れ、これまでにない感動の波紋を上げたようです。

アンコールのアンコールを指揮された遠藤良治先輩は、昭和27年11月開催「Das Erste Konzert Des Chor」戦後、男声合唱として再出発した北大合唱団の第1回演奏会指揮者です。合唱団OB会東京支部での練習で、「私の耳には、出征学徒に捧げる、ゆつたりと歌う壮行の「都ぞ弥生」が残っている」とお話しされておられたとのことでした。ゆつたりとした「都ぞ弥生」が流れるや、前列で涙を浮かべておられる男性客を発見し、私も抑えることが大変でした。

「都ぞ弥生」は、北大人に校歌のように愛され歌い継がれてきました。昭和一桁頃までは、昭和5年制作コロンビア蓄音機のSPレコードでお分かりのように、八七調8行詞後半の5〜7行詞は3拍子でした。寮歌の主流をなす2拍子系を愛する学生は、赤木顕次の3拍子から離れ、日中戦争頃からは「一息二文字」と超スローで歌われるようになりました。函館本線札幌駅前の停車時間は7分間で、汽車が動き出しても1番を歌いきれなかったという逸話もあります。

北大創基百年の昭和51年以降、「都ぞ弥生」のリズムは、3つの流れとなります。公式譜となっている川越守氏校訂の川越節は八七調8行詞後半の5〜7行詞を「4・4・3・3」拍子、恵迪寮同窓会生は「4・4・3・4」拍子、北大合唱団OB会は昭和40年末頃から「3・4・3・4」「3・4・3・4」「3・3・3・4」

拍子と言う変拍子です。

赤木顕次が、2拍子の途中に3拍子を組み込む記譜法を知らなかったため、楽譜を読める後輩たちは混乱し、十数種類の楽譜に改ざん・編曲してしまいました。しかし、何の心配も必要ありません。北大人が肩を組み「都ぞ弥生」を歌えば、「夢こそ」からの5〜7行詞は、いつのまにか「4・4・3・4」拍子になります。これからも、世代を超えて歌う歌「都ぞ弥生」は永遠です。

むすび

明治から大正にかけて、プロテスタント宣教師ジョージ・M・ローランド氏が札幌に音楽文化・合唱文化を根付かせました。農科大学には、そのご子息ポール・ローランド氏が男声合唱を開花させました。更にP・ローランド氏は、サンフランシスコ万博パンフレットにて、クラーク博士が遺した尊き野心の訓え(Lofty Ambition)



平成20年 北大寮歌を歌う会 (時計台ホール)

を的確なる表現で発信して下さいました。

北大合唱団創立百年を記念しての合唱団OB会演奏会(2014/5)、北大ホーム・カミングデー記念演奏会(2014/9)、北大合唱団第63回演奏会(2015/1)にて、札幌農学校Marching Song「永遠の幸」、東北帝国大学農科大学「College Marching Song」、そして東北帝国大学農科大学恵迪寮寮歌「都ぞ弥生」の三大果実(三美歌)を歌い上げたことは言うまでもありません。尚、私たち合唱団OB会・北大合唱団は、「College Marching Song」のリフレーン[Vive la Tohoku Noka Daigaku, forever and forever.]を[Vive la Hokudai, Vive la Hokudai, forever and forever.]と読み替え、母校にエールを送りました。

(札幌市豊平区)

「林住期」からの断想

原口 芳明

(S41年入寮)

恵迪寮の頃

私は鹿児島で生まれ育った。北大に行きたいと思うようになった一因は、高校時代にたまたま読んだ内村

鑑三の『余は如何にして基督信徒となりし乎』だったが、あるいはその少し前に読んだ國木田独歩の「空知川の岸边」にまず惹かれたような気もする。今にして思えば、相当時代錯誤的だったが、何よりも自分を変えたいという根本的な衝動が動いていた。その動きの先に北海道と北大(恵迪寮)があった。

昭和40年春、当時の国鉄夜行列車を東京で乗り継いでほぼ50時間かかって札幌に着いた。何もかも新鮮だったが、懂れていた恵迪寮にその年は入れず、たしか翌年に入った。授業が面白くなくサボっていたため2年上がる時、単位不足で留年してしまった。

血気盛んな学生の集団が醸し出す雰囲気、尽きることのない議論、壁に書かれたおびただしい落書き、エツセンの開始を告げる鐘の音、真夜中のストーム、カツコウの鳴き声。これらの総体は今も私の中で生きている。

寮歌は良く歌った。「都ぞ弥生」は勿論定番だったが、二高の「紅萌ゆる……」、一高の「ああ玉杯に……」、それに「心猛くも鬼神ならず……」の水産放浪歌も必ず歌った。

時代的には大学紛争の少し前だった。寮内放送ではいつもアジ演説が流された。誘いをうけてデモに出たことも何度かあったが、読書と音楽と孤独な夢想の世界に没頭していた。

「レコード管理委員会」の部屋に一時入っていた。真冬の朝、階下の音楽鑑賞室から流れてくるシベリウ

スの音楽を夢うつつに聴いたりした。また、ほとんど何もしなかったが、有島武郎がつくったという「黒百合会」に所属したこともあった。ただ一枚描いたアルチュール・ランボオの肖像画は寮を去る時捨ててしまった。

「林住期」の今

古代インドでは人生を四つの時期に分けて考えたという。学生（がくしょう）期、家住期、林住期、遊行期である。恵迪寮時代は私の「学生期」のいわばシンボルだが、職につき、結婚し、子どもを育て家族と暮らす「家住期」は愛知県、岐阜県で過ごし、愛知教育大学で37年間研究と教育に従事した。

退職する1年前に東日本大震災と原発事故が起こった。それが私を変えた。1年間岐阜から福島まで新幹線を通った後、2年前福島県に一人で移住した。私の「林住期」の始まりである。私にとって「林住期」は家族から離れて今までやれなかったことをやる時期である。

今やっていることは、主に小、中、高のスクール・カウンセラーである。不登校の子どもや色んな悩みを抱えた子どもたちと関わり、先生方や親さんとの相談に乗っている。

原発事故は未だ終息しておらず、傷は開いたままである。子どもたちのことを考えると気がかりが多い。私にやれることは限られているが、微力を尽くしたい

と思っている。
フェイスブックで知り合った同期入寮の八重樫君から恵迪寮について書いて書いてみないかと誘われ、感謝の意を込めて、「林住期」の人間として切れ切れの思いを書かせていただいた。

（福島県郡山市）



家族と離れ、原発事故の福島県で小・中・高のスクール・カウンセラーに関わっている原口君

『瓔珞みがく』

作曲家・星野奇君くすしに捧げる

倉嶋 清次

(S42年入寮)

〓国指定重要文化財星野家住宅。ここの先々代当主は、大正九年桜星会歌『瓔珞みがく』の作曲家・星野奇君くすし。

星野奇——以下、北大寮歌前口上の慣例に倣って「君」付けで呼称する。星野奇君は、明治28年に今の静岡県島田市に生まれた。作曲時の姓は置塩(おくし)だったが、卒業後星野家の婿養子に迎え入れられた。住宅に掲げられた額にも星野奇と記されていることから、敬意を表して以下星野奇と記す。

北大体育会剣道部昭和42年入部組は、隔年で開催されている同期会を、平成26年11月に山梨県で開催した。笛吹市長に就任した小生を激励するため、石和温泉に宿をとり、昇仙峡の紅葉を楽しみ、太宰治ゆかりの天下茶屋や河口湖巡りで富士山も眺望し、大月駅で解散するというプランだ。その同期会まであと2か月と迫った9月のこと。大月市在住の絵本作家・仁科幸子さんの作品が富士河口湖のギャラリーで展覧されるという案内を頂いた。妖精のような魅力いっぱい

〓さっちゃん〓の絵に会いたいと、妻と駆けつけた。数年ぶりに訪れたギャラリーでひとしきり作品鑑賞をし、時間があったので、隣接のカフェに入った。片隅に置かれた数冊の本から『大月人物伝』という古るめいた本をなんとなく気もなく手にして、本を開いて目次を見ると【星野奇 北大に学び大月に生きた星野家当主】とある。「はて？」と思いつつページを開くと、『瓔珞みがく』の歌詞が飛び込んできた。すぐさま同期会へと思いが馳せて、幹事に連絡、大月駅解散の前に星野家住宅訪問を組み入れてもらった。妻は仁科さんに「さっちゃんのお陰で、星野家に行くことになったの。私も行っていいんですって」と電話を入れると、「私、星野さんの奥さまだ〜いい好き、親しいのよ。星野家で作っている納豆のパッケージデザインもしたの。私も参加させて〜」との返事。まったくもって、ご縁のなせるこの連鎖。

11月半ば、全国から集いし初老15名の同期会は、深まりゆく山梨の秋を楽しんで、旧交を温め、締めとしての星野家住宅に到着。ところが、降り立って目にしたのは「冬季閉館」の知らせ。はて？ ご当主は出張とは聞いていたが… 不安に思っていると、「申し訳ありません〜ん。一人なもので。」と奥さまが出迎えに跳んで来られた。申し訳ないのは当方なのに… と思いつつ、中に招き入れられた。

星野家は、甲州街道・下花咲宿の本陣であり、名主

や問屋を務めていた。現在の建物は、江戸時代後期の大火で焼け落ちた後に、村民総出で再建したという。

その東半分は土間と居間。土間には当時用いられた農業関係の大きな看板などが立てかけられており、空間から古の暮らしが立ち上ってくるようだ。内部は実に質素簡明。明治期に農村の暮らしを守り興そうとする、良心的な地主の御人柄を忍ばせる。奇君も、北大で学んだ醸造学を活かして納豆の製造を始めたたり、酪農組合設立を主導したりと、地域の指導者として大いに活躍をしたという。本陣たる西半分は、格式に満ちたものだった。大名は大名専用玄関から入り、奥の一段の間に座した。また、廁(トイレ)は畳が敷かれて、便器と備え付けの書見台は、漆塗り。明治13年には、山梨を経て京都へと行幸される明治天皇の御小休所にあてられた。天皇が休まれた上段の間には山岡鉄舟の「御小休」の木札とともに、御札として下賜された天皇の肖像画が納められていた。星野家の女性たちの筆になる絵画の中には三浦環の姿もあつたりして、親交の広さ深さが偲ばれる。

『主人が居たら良かったのに、どんなに喜んだか。私じゃあ』といいながらも見事な奥さまの案内に感謝しつつ、建物内を拝見し終えて、居間に掲げられた『瓔珞みがく』の前に、私たちは横一列にならんだ。前口上は小生が務めて、揃って歌い出した。額中の奇君に話しかけるように。私たちの四十余年を遡りつつ、自らの青春を回想しながら。そして百年近くを遡って、

星野奇君の時代に想いを巡らしながら…、『瓔珞みがく』を歌った。

天の導きというか、ご縁に深く感謝致しつつ、用意されていた茶菓子を頂戴し、外に出た。玄関前には、北大植物園の歌碑の副碑という『瓔珞みがく』の歌碑が立っていた。同形式で小ぶりなその歌碑と星野家の奥さまとさっちゃんに見送られて、解散予定地・大月駅へと向かった。

瓢箪から駒が出たというような同期会の成り行きをここに記すこととなったのも、またご縁。『瓔珞みがく』を通じての、

星野奇君からのメッセージを全ての北大関係者に伝えたい。その伝達役に選んでくれた星野君、ありがとう。

(山梨県笛吹市長)



入寮同期や剣道部の仲間と星野家玄関前に建つ「瓔珞みがく」歌碑の前で(筆者は中列右から2人目)

家族そろって寮歌祭

光井 久

(S44年入寮)

昨年11月22日、東京・大田区産業プラザで「第13回北大寮歌祭」が例年通り開催された。この寮歌祭は2002年(平成14)に北大応援団のOBの方々が中心になって実行委員会(第1回の委員長は本田彰氏)が結成され、山元周行先生を顧問として「北大寮歌を歌うことにより、同窓生としての一体感を共有し、明日への人生の活力が生まれれば」(第一回案内の前書きより)との熱い想いが込められて始まったものである。年1回、10月から11月頃に開催され、初回の参加者は数十名であったが、第5回では100名を超え、昨年の第13回では200名以上の老若男女が集う寮歌祭となっている。

嫁や娘、孫と一緒に寮歌熱唱

この寮歌祭には、北大入学・恵迪入寮から40年以上、ずっと繋がってきた我が親愛なる仲間たちの多くも家族同伴で初回から欠かさず参加している。海外滞在者は一時帰国を早めたり、遠方居住者は出張にかこつけたり、地元町内会や老人会の会合には適当な言い訳をして、この集まりを優先して参加してきた。

参加者の中でわがチームは常に異色の存在である。還暦過ぎた嫁やアラフォーの娘、乳母車に乗った幼児から小学生の孫らに加わって、共に声を嗶らして寮歌を楽しんでいる。

現在65歳前後の我が仲間達との付き合い、それは1968～1970年(昭和43～45年)の恵迪寮での出会いから始まった。出身地は北海道、東京、神奈川、群馬、愛知、岡山など。自意識過剰ながらも純情可憐、視野は狭いが正義感だけは強く、これからの人生に怖いものがないというような顔をしていた青二才だったような気がする。大学紛争の真ただ中、憧れの「貴き野心の訓え」とのギャップに戸惑うもの、闘争に参加するもの、アルバイトに精を出すもの、本の世界やクラブ活動に浸るもの、免疫無き麻疹に似た恋に熱を出すもの、いろいろあって色々な若者がいた。

恵迪寮のくされ縁は生涯の宝物

気が付けば卒業頃には、酒と寮歌と連帯感を共通根とする10人程度の気兼ね無用の仲間(要は二十歳の春と同じ釜の飯を食った吞兵衛仲間)が出来ていた。海外の企業、自治体の役人、金融企業、情報産業、土木屋、炭鉱マンなど、職種も居住地も異なる人生を歩んだが、各々の結婚や出産、転勤、一時帰国などそれぞれの人生のエポックには必ずといっていいほど連絡を取り合い関係を続けてきた。連れ合いや子供達、最近孫たちも巻き込んで寮生時代さながら、大騒ぎと



だから感慨深い。北大恵迪寮で得た友や寮歌との縁は生涯の宝である。この寮歌祭がずっと続くことを願ってやまない。

(群馬県榛東村)

なることもしばしばである。

人とひととの出会いと、いろいろな人生の流れから見ればたまたまの縁と云うしかないほどの偶然の積み重ねによつて生じた出来事である。もしあの時あの所にいなければ……と想うと、今とは違う現在になっているの

親子2代、同期生

松岡 繁幸
(S48年入寮)

もう40年以上も昔、馬糞風と共に冬が去り、蝦夷地のサトホロベツにもようやく遅い春がやってきた頃、学園紛争の影響で入学式も取り行われず、何の实感もないまま北大に入学し、新入生はそれぞれのクラブに入部して学生生活を始めた。

その中に、岩手県の山奥の町からはるか離れた地方都市に下宿し高校に通い、現役で入学したT君という学生がいた。

彼は、郷里では神童といわれ、皆の期待を一身に背負って、津軽海峡を渡ってきた純朴な少年だった。そのT君が、どうしたわけか応援団に入り、髪を伸ばし始めた。そして、その事件は起こった。ある春の一夜、寮内がひどく騒がしくなり、叫び声やうめき声が充満し、次々と学生が運び込まれてきた。

恐る恐る様子を見に行くと、ある者はベッドで死んだように眠り、ある者はわめき騒ぎ、まるで、映画でみた野戦病院さながらの光景だった。そのうち救急車で北大医学部付属病院に運ばれる者まで現われた。

その頃、私は柔道部に入っていたので事情が分からず、先輩に聞くと、新入生を歓迎する応援団の野外ジ



恵迪寮祭の仮装（女装）パレードで旗手を務めた

ンギスカンパー
テイ（通称新歓
コンパ）で酔い
つぶれた、新入
応援団員の諸君
達だった。

そして、その
死体のような連
中の1人に、岩
手の神童、T君
がいた。その夜
は遅くまで、う
めき声、わめき
声、ゲロを戻す
音が南寮階上階
下にこだまし、

恐ろしく長い夜が過ぎた。

さて数日後、やっと元気になったT君に恐ろしいト
ラウマが刻印されていた。「もう二度と焼酎は飲みた
くない」「もう二度とジンギスカンを食べたくない」と
いうトラウマが……

その後、T君は私より1年長く寮に残った後、私と
同じ工学部に進んだ。私が住んでいたアパートの隣り
の部屋に越してきて、暇があるとボロロンと古いギ
ターを弾いていたが、真面目に大学に通い、応援団も
無事卒業して東北の電力会社に就職した。



入寮した長男・渉君と恵迪寮命名の碑の前で
(平成16年4月)

5、6年後、彼は大好きな桜田淳子にはあまり似て
いなかったが、仙台でかわいいお嫁さんもらい、山
形の変電所長を勤めた。その頃、応援団OBの飲み会
があり、誰かが「変電所長って何をするところ？」と
聞いたところ、同期のT団長がその頃流行ったゴジラ
映画を連想してか「ゴジラが上陸してきて変電所を踏
みつぶそうとした時に、あっ！ゴジラだ！」と大声
で叫ぶ役だ」と言い、大笑いになったことがある。

T君の長男は、仙台一高から現役で北大に入学し、
どういいうわけか工学部情報エレクトロニクス系でうち
の息子と一緒にになった。つまり、親子2代にわたって、
学部学科の同期生となったわけだ。

T君の長男は卓球部で頑張り、大学院を出て、めで
たく東京電力に入った。ところが、入社して1年もし
ないうちにあの東日本大震災が起きた。T君は息子が

東電に内定した時には、朝早く電話をかけてきてとても喜んでいたので……。

予想だにできなかった運命に見舞われたT君の息子。今、どうしているのだろうか、もし会える機会があったら、親子ともども、北大時代を語り、励ましてやりたいと思っている。

(東京都板橋区議会議員・

第65代応援団親衛隊長&団旗長)

春秋の十年の後に

荒井 一利

(S49年入寮)

純な少年が半年過ぎればバンカラ寮生

昭和49年(1974)の受験時に宿泊した民宿は相部屋で、試験終了後、同室者に誘われ、構内にある体育会の部室棟と思われる場所を訪れたが、後にそこが学生寮と知り驚いた。入寮銓衡の時に、「ロマンポルノのあえぎ声」を出せと言われた時の恥ずかしさは今でも忘れない。入寮してトイレで用をたさそうとしてノックをしたら、「オリヤー、何の用だ」とどなられた時の戸惑いは今でも忘れない。しばらく、トイレに行くのが恐怖となり人生で初めて便秘になった。「これ

はエライところに来てしまった」という緊張感を覚えたのは事実であった。しかし、ピュアな少年が恵迪色に染まるのにはそれほど時間はかからず、半年もすると、小便是窓からするのがあたりまえとなり、ビラを配りに来たヤツをおどかして、部屋で一緒に暮らしていた雑種犬「シロ」に挨拶をさせ、トイレの戸をノックしたヤツには、自己紹介までさせるようになってしまった。

1. 家を出たかった 2. スキーをやりたかった 3. ネコ以外の動物が好きだった 4. 海が好きだった という軽薄な4つの理由で大して考えもせず北水産類を受験した。ほとんど見たこともない、アザラシやトドなどの海獣類と呼ばれる動物に漠然と興味をもっていったが、何をしたらいいのかもわからないまま、「学生」とは名ばかりの生活を送っていた。その後、寮で出会った先輩を通じ、厳寒の礼文島でトドの調査に参加することができた。

念願のアザラシ飼育員に

1年ドツペった後、1976年9月に函館の水産学部増殖学科へ移行した。4年になり水産動物学講座に進み、「追試」ばかりの劣等生だったので担当教官にはずいぶん迷惑をかけた。就職活動のシーズンとなり、さほどやりたいこともなかったので、「アザラシにエサをあげながら生きていけたらいいな……」などと考え、これまた、漠然に「上野動物園のアザラシ飼育係」

を目指すことにした。飼育しているかどうかもわからなかったので、上野動物園で2頭のアザラシを見つけた時は、思わず涙がこぼれた。事務所を訪ねたところ、上野動物園のアザラシ飼育係は東京都職員であり、東京都の公務員採用試験を受験しなければならず、しかも、その試験は本日、実施されていることを知り、函館に逃げ帰ることになった。その後、上野動物園以外でもアザラシを飼育していることがわかり、先生方のお力添えで、鴨川シーワールドに入社し、念願のアザラシ飼育係になることができた。

動物の生命を献身的に守るといふ飼育業務は多忙を極め、肉体的にも精神的にも疲弊し安易にこの職業を選んだことを悔やんだ時期もあったが、多くの動物たちの飼育を通じ、さまざまな発見をするとともに生命のぬくもりや誕生の喜びに接するう



鴨川シーワールドのセイウチとともに

ちに、その魅力にとりつかれ動物たちから離れられずに今日まで過ごしている。2007年に館長に就任し、さすがにアザラシにエサを与えることはできなくなり、昨年5月より（公社）日本動物園水族館協会の会長を務め、雑用に追われる毎日を送っている。10月には、光栄にも北大東京同窓会のエルム談話室で水族館の話を見せていただいた。恵迪寮に多謝。

（千葉県鴨川市・鴨川シーワールド館長）

恵迪寮は心の母川

呉 敦

（S 58年入寮）

この正月は神社初詣で中吉でした。近隣国との関係回復の兆しがあり見えず、経済の格差が一段と拡大しつつあるといえる世の中ですが、ひとまず平安の一年であることを祈り、まあまあ満足なおみくじでした。

思えば、入寮していた時、ほぼ毎年大晦日は一階の共同食堂で大パーティーを開き、大吞で熱くなつた身体のまま北海道神宮に行っていました。初詣の一番乗りを狙う人たちと、雪のなかで年越しカウントダウンをするとともに、神宮の係員が門を開けるのを待ち続けていました。新しい年を迎えた時は、一つの区切りとして、一歳年をとってしまい、また未知なる新し

い旅路が目の前に広がったというようなくわくわくドキドキした気持ちでした。一度、ものすごい猛吹雪のなかでF棟の留学生数名と寮から北海道神宮まで徒歩往復したこともあったのをいまだに憶えています。凍えるほど寒かったけれど、結局寮に戻って、朝明けまで騒ぎました。若かったです。その時から、宗教を信じている者ではないけれど、初詣がいまやすっかり家族の恒例行事となりました。

親・子・孫 三代北大に学ぶ

「なぜ北海道大学に來たの？」とよく聞かれます。

実は、子どもの頃から戦前に北大医学部（旧北海道帝大・医十九期）で学んだ父親に、北大、北大と洗脳されてきました。そして私は中国の吉林大学を卒業した後、直ちに北大の大学院に入学させられました。進路については、自分の考えと親の意見が食い違うところがありました。千歳空港に着いた、昭和57年2月1日はびっくりするほどの大雪でした。親父の考えや思いは確かなもので、北海道は豊かな大自然とおおらかな道民性のある素晴らしい土地です。

もちろんそのあとと言うまでもなく、北大や恵迪寮も自分の誇りとして感じられるようになってきました。卒業してか



企業ロゴにも恵迪寮

ら約10年間大手電機メーカーに勤め、17年前に北大正門の近くにIT会社を立ち上げました。ちなみに、いまは娘も三代目の北大生として医学部に勉強しています。北大には親、子、孫、本当にお世話になりました！残念なことで、卒業した寮生との交流は少なくなりましたが、一升ビンを飲み尽した森川君、また世界中に点在している当時のF棟留学生の数名と、年賀状や電子メールなどを通じいまでも交流を続けています。

サケは春ごろに放流されて、3～5年後に再び育てられた川に、数万キロの旅を終えて海から帰ってきました。母川回帰ともいいます。北海道大学そして恵迪寮から離れて、大いなる夢と豊かな環境で育った感性を原動力に、皆が社会へ飛び立ちました。しかし、この「心の母川」は、誰ひとりとして永遠に忘れることはいでしよう。



趣味の船釣りで大物ゲット(瀬棚川)

栄え行く我等が寮を誇らずや

小倉 瑛矢

(H22年入寮)

青春の陶冶、恵迪寮に感謝

北海道大学を卒業してもうすぐ一年が経とうとしている。私自身感傷的な人間ではないが、こうして大学時代について改めて考えると、やはり恵迪寮での生活は最も色濃く、他には無い貴重な体験を重ねた時期であったと振り返っている。

数えきれないほど歌った寮歌、個々が想いを形にしてきた委員会活動、学生ならではの自由な行事、様々な思い出となって残る部屋活動：挙げればきりはないが、多くの寮生がこうした経験に強く影響されてきたのではないだろうか。私にとって一つ一つの経験は、深く、色濃い思い出であるとともに、私の視野を広げ、自分を形成する大きな糧となっている。個人的にはなるが、大学時代、語りつくせない程思い出深い青春を過ごした北大応援団との出会いも、恵迪寮でのことであつた。当時の部屋の先輩に、新歓期の「喰い極」の最中助っ人に誘われ、あれよあれよという間に入団を決めたのを鮮明に覚えている。応援団としての学生生活に出会えたのは、恵迪寮へ入ってこそのものである。

恵迪寮に入ってこそと言えば、「清き國ぞとあこがれぬ」の中で、横山芳介役を演じられたのは、今でも信じがたい稀有な体験であつた。プロの役者に混つて不思議な体験であつた。中西と北沢（ここでいう赤木と山田）と共に登った早春の藻岩山、心から感嘆の言葉が漏れた富良野の絶景、決死の思いで臨んだ深雪への飛び込み、そして撮影を支えてくださった関係者の皆様との思い出は、鮮明に脳裏に焼き付いて離れない。生前、横山芳介君は静岡県にて小作官として農民の側に立って活躍し、多くの農民の信頼と尊敬を受けた人物であつた。

横山芳介の生き方に憧れて十勝へ

全てそれに影響されてというわけではないが、私は今十勝の農協に勤め、生産現場にて技術指導者という立場で働いている。日本有数の大規模農業地帯であるこの十勝で



小倉君の進む道を決めた「清き國ぞとあこがれぬ」の横山芳介役（左は赤木顕次役の中西博宣君）

は、何もかもが想像以上の規模であり、新たな環境に期待が膨らむと共に、常に知識と結果が求められる技術指導者という立場の難しさに、日々勉強の毎日である。まだ勤めて間もないが、生産者の立場に立って、現場で汗を流す今の仕事にやりがいを感じている。

自分の人間性を作る大きな要素を、そして数えきれない思い出を与えてくれた私の知る恵迪寮に、そしてこれからも多くの人間の成長を見守ってくれるこれらの恵迪寮に感謝の気持ちを含めて…。

「栄え行く我等が寮を誇らずや」

(北海道・上士幌町)



農業生産者の立場で技術指導にあたる小倉君

事務局だより

楽しい思い出ありがとうございました

恵迪寮同窓会事務局 佐藤 静子さん

今年3月で(株)アークスを退職いたしました。長年、アークス本社で一人の事務局はおわり一区切りとなりましたが、4月からは3人体制になり、事務局員の一人として引き続きお付き合いさせていただくことになりました。4月の恵迪寮同窓会定例理事会の懇親会では、私への心温かい慰労をしていただき、胸が一杯でございました。

社業と同時進行でしたので忙繁期は辛いときもありましたが、上は90歳以上の厳父のような方から下は孫みたいな現寮生まで幅広いお付き合いで、とても貴重な楽しい経験をさせていただきました。同窓会の皆さまからは、まるで別世界のような“恵迪寮歌”や“クラーク精神”を教えて頂き、私の人生に多くの実りある足跡を残すことができました。そして私も少しばかり人の役に立つことができたことに喜びを感じております。

会社は卒業いたしました。これからも自分の出来る範囲で同窓会のお手伝いをさせていただけることを嬉しく思います。伝統ある恵迪寮同窓会が永遠の会でありますことを祈念してお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

地道にこつこつやっています

恵迪寮同窓会事務局長 佐藤 市雄 (S38年入寮)

事務局をこれまでのアークス旧本社からクラーク会館に移転するに伴い新しい事務局体制として事務局長のご指名を頂き、大隈昭二さん、佐藤静子さんとともにやっていくことになりました。

クラーク会館の事務室は、ドラマ「清き國ぞとあこがれぬ」のDVD販売の処理をするために2年間、大隈さんと通い続け、その延長で引き受けることになりましたが、果たして何が出来るか不安もあります。きめ細かい対応でこれまで一人で切り盛りしてこられた佐藤静子さんに引き続きご協力いただきながら、引き継いでいきたいと思っております。

恵迪寮同窓会の素晴らしいところは、学部横断的で社会的にも様々な分野で様々な体験をしてきた人々の集まりです。その同窓生が、若き現役生や先輩、後輩とも交流する場として、活発に活動している極めて実態のある同窓会です。今年の入学式で山口総長は「国立大学の中にあっては、めずらしく、建学の精神・理念を持った大学」と述べました。北大で最もその精神を受け継ぐと自負する我が恵迪寮同窓会の存在は、最近の大学に対する国の関与の強まりの中でますます役割が大きくなっていると思っております。こうした時代背景も意識しつつ同窓会の縁の下の力持ちとして地道にこつこつ仕事をしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



大震災や病に屈せず同窓会 活動に尽くした山中義正君

窪田 開拓

(S 32年入寮)

4月5日、君逝くと長谷川久君より入る。もう君の追悼の辞は吐かない。互いに70代後半まで来たのだから。そして残る私もそのうちに君にまみえることになるから。

昭和32年入寮、翌年高野豊君と凌ぎを削って163期山中執行委員長となる。木綿緋の着物を羽織って走り歩きていた君、柔らかな中に一本筋があった君、卒寮時、ギター曲「禁じられた遊び」で寮生をあとと言わせたね。その後、明治乳業に就職して企業活動に励み実績を重ねたと訊く。退職前後の平成20年から恵迪寮同窓会東日本支部長を平成24年まで務める。恵迪寮同窓会存続のため寮歌振興に熱心で、恵比寿、群馬、仙台での寮歌祭は素晴らしいものだった。

この間、東日本大震災で君の住む浦安付近は液状化現象により家屋損壊が続出。地域自治会のリーダーとしてその復興に力を傾注していたようだ。多分同窓会どころでなかったと慮る。しかし君は、間質性肺症にも拘らず無理を押し同窓会活動を続けていたと聞いている。そして逝く



ありし日の山中君（恵迪寮寮歌祭で）

直前まで家族と談笑していたが、突発性肺線維症により命の綱を絶つたと聞いた。在寮時、寮務部長であった石川舜君も八王子の病院でリハビリ中に清逸の中で息を引き取ったという。両人はすでに旅する姿勢になっていたのではなにかと思つた。差し出がましいが、寮はどうあるべきかと語っているのではなからうか。

苦しむことなく眠るがごとく旅立つ姿勢は却って翠夫人を随分嘆かしたことだろう。願わくば令夫人に楽しかった日のことを語って欲しいものだ。

振り返ると若き日に出会った仲間がかつての木造寮舎で寮歌を吠え、ストームをかけ、無我夢中で過ごしたね。さらに安保で明け暮れたことも。今、半世紀を超える年月を共に渡り歩き、苦楽して現世から彼岸に向かつて高らかに歌い手を繋いで行こうではないか。

山中君、またね。

君の朋友 開拓

【我ら同期会】①

「39・40会」入寮50周年のつどい 宇治川河畔に流れる寮歌

佐竹正治

(S39年入寮)

同時期を共に過ごした昭和39年と40年の入寮者でつくる「39・40会」。入寮50周年を記念して恵迪寮同窓会西日本大会前日の平成26年9月12日夜、京都府・宇治川河畔で「入寮50周年のつどい」を開催した。

会の企画は、芝垣美男(S39年)会長を中心に通信・連絡役の佐竹と白浜憲一(S40)、現地企画担当の千田忠男(S40)がそれぞれ幹事となって進行。開催地は千田幹事の発案で、平家物語・源氏物語の舞台や世界遺産の平等院鳳凰堂など史跡の多い宇治市に決定。初夏の頃から連絡網を駆使して往復はがきやEメールで参加を呼びかけた。粋な企画の宇治川河畔の鵜飼観覧に魅かれた人も多く、夫人同伴の会員や物故会員の夫人ら女性陣3名を含む計27名もの参加者があった。(出席者名簿と住所は末尾に掲載)

ふるさと自慢の銘酒を手に結集

当日夕、宇治川沿いの古色蒼然とした料理旅館「鮎

宗」にめいめいふるさとの自慢銘酒を持参して集合。夕闇せまる頃、今回の目玉である鵜飼観覧がスタート、篝火の燃え盛る2隻の遊覧船に酒を持ち込み乗り込んだ。

宇治川の鵜飼は平安時代からの伝統があり、風折(かざおれ)烏帽子に腰蓑(こしみの)姿の女性鵜匠2人が巧みな手さばきで鵜を操る。鵜匠は10年目の澤木万理子さん(37)と6年目の江崎洋子さん(32)。ともに美人で凛々しく、TVでも紹介されている。小舟に乗ってそれぞれ6羽ずつの鵜を操り、鵜が水中で捕らえた魚をはき出すと、思わずその巧みさに舟上から歓

声・喝采があがった。宇治川の鵜飼は「蜻蛉日記」にも登場し、宇治の夏の風物詩であるという。

鵜飼観賞を終えた後、川辺にある鮎宗宴会場に戻り「入寮50周年のつどい」が開宴。まずは、鬼籍に入った39年入寮者9



美人鵜匠の巧みなわざに喝采



各自持参したふるさとの銘酒を飲み交わす

それぞれ名付けたという娘さん達の命名秘話を折り込み、北大への愛着を話した。さらに応援団OBの吉川圭一君による「都ぞ弥条」を5番まで斉唱する。同席したお客さんも我々の美(蛮)声にびっくりした様子で、漆黒の宇治川面に北国の自然讃歌の寮歌が朗々と流れた。乾杯は恵迪寮同窓会代表幹事の白浜君が音頭を取った。彼はこれからの高齢者の生き方として、自宅に引きこもらず社会に関わりをもつて生きていきたいという積極的な内容の挨拶であった。教養取得をテーゼとして「今日、用がある」、生涯教育を「生涯、今日行くとこがある」と言い換えるなど含蓄ある挨拶

名、40年入寮者11名計20名の諸兄に對し黙祷を捧げた後、室蘭市在住の元落語研究会、弁護士・芝垣会長が開会挨拶。39・40会の歴史を振り返りながら3人の娘さんに「都ぞ弥生」の歌詞からとった「さや香」「はな乃」「なの香」と

挨拶の言葉で入寮50周年を寿いだ。

近況報告等のスピーチでは、故山口千里夫人の晴江さんから山口君の思い出が語られ参会者一同在りし日の彼を偲んだ。出席者の中で、本州で一番遠方の北九州市から参加した鈴木修六君が、胃の全摘手術を乗り越え元気に過ごす現状を力強いスピーチで語り、また、森輝男君は、生誕100周年を迎え、NHK等で記念ドラマが放映されたり、イベントが行われている伊福部昭氏(作曲家「ゴジラ」の音楽を作曲、農学部林学科卒)に関して、北大独自イベントを企画すべしとのスピーチは特筆すべき内容であった。これについて先進的に動いている天形博茂君(S39・元北大オーケストラ)からの情報によると、今年9月に北大オーケストラによる演奏会が企画されているが、大学・学部の動きは未定とのこと。

半世紀前にタイムスリップ

この後も小グループに分かれて、互いに酒を酌み交わし、過去に遡り、現状を分析し、未来を俯瞰しながら談論風発となり、各自旧交を温めた次第である。

閉会挨拶は、現地幹事の千田君による「都ぞ弥生」五番の最終行「貴とき野心の訓へ培う」の分析で、「大志を抱け」ではなく、「野心」というイメージこそが「とうとい(貴とき)」ののだとの思いに駆られたとの哲学的思考の近況報告を述べ閉会とした。

閉めは、吉川君による北大と恵迪寮へのエール発声



鵜飼観賞の後、船宿「鮎宗」で記念撮影

に全員唱和、そして、ストームで終えた。ストームはさすがに70歳前後元寮生諸兄には、なかなか足ががらず、逆に息があがった人もいたようだ。

我々元寮生もすでに前期高齢者を超え、後期高齢者も間近に迫る中、半世紀を隔てた今なお、青春期を呼び起こす寮歌の歌声に感無量であった。

宴の余韻が残る中、翌日の恵迪寮同窓会西日本大会（つどい27名のうち11名が出席）や京都観光に向かう者、所用で東京・名古屋方面の新幹線に急ぐ者などの最終列車の時刻が迫ってきたため、全員元気で次回も参加することを約束し、「Per Aspera Ad Astra」（経苦

難幸星）と言い交わして一旦幕を閉じた。しかし、「鮎宗」に宿泊した7、8名はさらに酒宴を続行、遅くまで大いに盛り上がったとのこと。翌朝は新装なった平等院鳳凰堂や源氏物語ミュージアムで再会する者も多かったという。

今回、出欠連絡や名簿整理・つどい集作成を担当したものととしては、メールアドレスを正確に把握することが今後の会活動を円滑に進めてくれるものと再認識した次第である。「つどい集」には、メールやがきで頂いた近況文・最新名簿を入れたので好評を博した。残念だったことは、39・40会諸兄のご協力を頂きながらも、不明者（39年39名、40年32名計71名）を一掃はできなかったことである。

※参会者名簿（50音順）

【39年入寮組】天形博茂（愛知県豊橋市） 佐竹正治（富山県富山市） 佐藤忠昭・直子御夫妻（神奈川県大和市） 芝垣美男・晶子御夫妻（北海道室蘭市） 鈴木修六（福岡県北九州市） 竹内功夫（東京都西東京市） 鳥潟肇（愛知県名古屋市） 平野修（愛知県名古屋市） 森 輝男（千葉県浦安市） 山田秀司（京都府京都市） 吉川圭一（大阪府大阪市） 六車 義方（大阪府茨木市）

【40年入寮組】故山口千里君夫人晴江様（愛知県岡崎市） 阿部弘（愛知県春日井市） 大隈昭二（北海道札幌市） 金田次弘（愛知県名古屋市） 黒川俊夫（千葉県流山市） 紺谷吉弘（京都府宇治市） 斉藤 學（奈良県生駒市） 佐々木忠（北海道江別市） 白 浜憲一（北海道札幌市） 鈴木孝吉（埼玉県さいたま市） 千田忠男（京都府宇治市） 内藤春彦（北海道札幌市） 成ヶ澤憲太郎（神奈川県秦野市）

【我ら同期会】②

昭和58、59、60年 入寮30周年の集い

湖に星の散るなり

世話役 藤本康男

(S58年入寮)

平成27年3月21日から1泊2日で支笏湖丸駒温泉にて、昭和58年から60年入寮生30周年の集いが催されました。

そもそもこの集いは、恵迪寮同窓会から提案され、札幌在住の我々世話役が幹事となり企画を進めてきた経緯があります。寮歌にもあるとおり「三十年（みそとせ）後に集わなん」ということで、まずは名簿作りからスタートしました。

昭和58年は現在の恵迪寮が初めて新入生を迎えた年にあたります。当時は「新新寮」と呼ばれていたと記憶しています。私もその新入生の一人で、ピカピカの真新しいロビーの高い天井を仰ぎながらも、床に敷き詰められている古畳にぎよっとしたことを今でも鮮明に覚えています。ロビーに迎えに来てくれた2年目の先輩の嬉しそうな顔は同じく鮮明に脳裏に焼き付いています。恵迪寮の先輩とは世間一般の先輩というカテゴリーをはるかに凌駕する有難い存在であることにそ

の時は全く気が付いていませんでした……。

そのような建物の新しさはただ単に物理的に新しい物としてだけではなく、寮のあり方そのものにも多大な影響を与えていた、ということが入寮後認識されるのですが、大学側によって入寮を許可された。我々新入寮生はともかくその渦中に放り込まれ、その影響を完全に免れたものはいなかったといつていいでしょう。その影響を最も受けた年が59年入寮組です。いわゆる自主入寮詮衡で入ってきた人たちで、この年の入寮者は極端に少なく、その後、再び大学によって入寮許可された60年組が入寮したのです。

支笏湖畔に30名集結

さて、そのような経緯があった我々58、59、60年組ですが、今や48歳〜50歳（それぞれプラスα）に達し、それぞれ、会社や社会でそれなりの地位と責任を負う世代で、最も脂の乗った時期を迎えています。中には脂が乗りすぎて当時をうかがい知れるのは「目元」のみという偉大な人もいましたが、ともかく、30名（同窓会副代表幹事の吉沢さん含む）が支笏湖に集結したのでした。

当日は晴天に恵まれ、支笏の湖は真つ青なブルーにして悠々と佇んでいました。残雪の風不死岳とのコントラストも美しく見事な眺めでした。宴会前に入った露天風呂ではさっそく「湖に星の散るなり」を謳うグループもいました。

大宴会の始まり

宴会は「永遠の幸」からスタートしました。町田君（60年）の音頭で30名の大合唱。太鼓をたたくのは応援団の直寿次君（60年）。バンバン響き渡る太鼓の音はいつ隣から文句を言われるか内心ひやひやものでしたが、結局2時間の宴会で一切苦情はなく、丸駒さんに感謝）

一曲歌えば一瞬にして当時の世界へワープ。脂の乗りすぎた水子君（S58）も往時の面影がだんだん鮮明になって見えてきました。インドの哲人のような大友君（同）も当時のカーリーヘアになっています。七海君（S59）の髪も真っ黒です。皆、それぞれ脳内が当時にリセットされて、気分は18歳（プラスα）へ一直線です。



会場の丸駒温泉からの眺め
残雪の風不死岳と真っ青な支笏湖

しばし、歓談のあと、宴会メインイベントの自己紹介が始まりました。世話役は当時を再現するために、SS（サッポロソフト）と武器（どんぶり）を用意しました。しかもSSはアルコール入りとノ

ンアルコール（水道水）を選択制にするという気の使いよう。（実際にはアルコール入りを選択する人がほとんどで妙に感心してしまいました）

世話役代表の難波君（S58）がトップ

バッターです。ソーレ、ソーレの掛け声の最中にいきなり自己紹介を始めて、やり直し。岡山県立〇〇高等学校出身、リヤア、あれっ…何だっけ？…でもう一回やり直し。結局難波君は3回もやり直しで、しかも、アルコール入りを選択したのでこの時点で完全にノックアウト。

S58田辺君は自己紹介の途中から喋りまくり、そのまま、名前を言わずに席に戻ってしまったので当然ながら最初からやり直し。彼は、他の人の自己紹介の最中に絶妙な突っ込みを入れるという特技を發揮して場



町田君（S60）による「永遠の幸」前口上

を盛り上げていましたが、(たとえば、生協に勤めている川田君(S58)の自己紹介の折には「生協のドレッシングを一気飲みしてください」とか…)支笏湖へ移動するバスの中から飲み始めていたため、あえなく撃沈。彼を恐れていたS60年組はまじめに安堵していました。

当時の(あくまでも当時である)恵迪寮の先輩の有難いところは、その、介抱の完璧さにありました。部屋周りで酔い潰れた新人を探し出し、部屋に連れて帰り、水を飲ませて完全に胃の中のものを吐かせ、新聞紙を敷き詰めたベッドに寝かせ、枕元には新聞紙入りの洗面器を置き、一晩中介抱してくれました。新入生は朦朧とした意識の中で「ああ、この先輩たちはなんと優しいのだろう」と思うのでした。しかし、正気を取り戻した新入生には次のような疑問が浮かびます。「しかし、その優しさは必要なのか?」と。その介抱の優しさ、見事さの根源は、もとをたどれば部屋周りを主催した先輩側にある。あの、恐ろしい部屋周りを作りましたのも、そして完璧な介抱を施す優しさも、同じ人たちから出てきているのだ。何とおぞましいマッチポンプ。ここに、恵迪寮の先輩に対する独特の有難さが醸成されます。怖いけど嬉しい、みたいな一回地獄に落とされて優しくされるといふ悪魔的な落差を自己演出することでその甘美さから抜け出せなくなるような、嫌だけど離れられないみたい

いな(もういいか)、そんな世界感なのである。そういう感情を先輩に抱くのです。

それが証拠に、田村君(S58)にSSをなみなみと注がれた町田君(S60)は「うわっ、極道…」とつぶやきながらも抗いきれず、それどころか少し嬉しそうな表情さえ浮かべて一気に飲み干すのでした。

また、アルコール入りのSSを選んだものに共通のセリフとして「うわっ、この味、思い出す…」と少し嬉しそうな表情を浮かべるのです。

各自心に沁みるエピソード

自己紹介でのエピソードでは心に沁みるものもありました。彼は高校時代に柔道部だった小川君(S58)。ある日、寮で相撲大会が開催されることを知った先輩に「おい、小川、お前柔道部だったな。相撲大会の優勝賞品がビール3リットルなので絶対優勝してビールをもらってこい!」。寝ていて起こされた小川君はとにかく興奮した結果、見事に優勝!! やった! 先輩にビールを持って帰れる!と喜んだのもつかの間、賞品のビールを受け取った瞬間に「ソーレ、ソーレ」の大合唱。結局、彼はビール3リットルを一気飲みし、その直後に逆噴射して、ビールがシンガポールのマールアイオンのように口から噴き出たとか。それを見た小川君は「きれいだな」と思ったそうです。その放物線が



インドの哲人こと大友君(S 58) (右から2人目)を囲んで懐古談

光を浴びてき
 さらとしたの
 でしょうね。詩
 的です、心に
 みますね……??
 そんなこんな
 で、抱腹絶倒の
 自己紹介が午後
 9時ピッタリに
 終了し、全員で
 「都ぞ弥生」を
 合唱して、一次
 会終了。

二次会は寮歌が定番

場所を隣の座敷に移して二次会のスタートです。二次会は、皆で車座になって昔話に花を咲かせました。二次会のメインイベントは寮歌です。頃合いを見て、誰かが立ち上り前口上、「アインス、ツヴァイ、ドラーイ」で大合唱。全部で20曲近く歌っただろうか。語り合い、歌い合う、そしてまた語り合い、歌い合う。このリズムがなんとも心地よく、寮歌があつて本当に良かったなあとつくづく感じたものでした。カラオケが定番の昨今の二次会ですが、我々には寮歌がある。歌詞はどこどこ忘れているが、メロディは覚

えている。
 18、19に覚え
 たものはずつ
 と覚えている
 もんだなと改
 めて認識した
 次第です。

その後、宴会は、部屋飲みへと続き延々と飲み続けたグループもあつたようです。大量に持ち込んだ酒もあらかた消費されました。(SSも空になってました！)

宴のあと

長い夜が明けて、窓の外を見れば本日も晴天なり。体に残った酒を抜くべく露天風呂へ。美しい支笏を見ながら浸かる温泉は本当に気持ちがいい。

朝食をとったあと解散となりました。お世話になった丸駒温泉の方々ありがとうございました。参加者からはまた5年後には是非やうて欲しいという声もいただきました。「30年後に集わなん」と歌っていたころに



“偉大な”水子君(S 58)の音頭で「瓔珞みがく」を高唱

は、まだまだ先の話だと思っていたけれど、過ぎてしまえばあつという間。30年という月日は人の姿形は変えたけれど、どうやら、恵迪寮で培った友情や思い出はしっかりと残っていたことを確認できました。とはいえ、この間に逝去された寮友も少なからずいます。この場を借りてご冥福をお祈りしたいと思います。また、今回各地から参加された皆さんに世話役一同心より感謝いたします。いろいろ至らぬ点はあったかと思いますが、機会があればまたぜひ……

寮友よ、再び集わなん！

おまけ

30周年の集いの後、世話役数人で恵迪寮に向かい、宴会で余った酒を現役寮生にカンパしてきました。執行部の案内で寮の中を見て回りましたが、さすがに30年の年月は凄い。想像を超えた仕上がりになっています（笑）。ちなみに私が新入寮生時代を過ごした部屋はなんと女子部屋に変わり、外から見える天井の蛍光灯がピンク色に光っていました。対応にあたってくれた現役の執行部のみなさん有難う。



三次会にて：西郷ドンのような木村君（S 60）と元援団の宜寿次君（S 60）

「文化講演と寮歌の集い」開催

平成 27 年 9 月 26 日(土) (第 4 回北大ホームカミングデー)

恵迪寮同窓会では、今年の北海道大学ホームカミングデー 2015 にあわせ、「文化講演と寮歌の集い」を開催します。

是非、思い出多いキャンパスで、北大・恵迪寮の精神をふりかえり、寮歌高唱に集いませんか。

北大 OB・OG が集う北海道大学ホームカミングデーへの恵迪寮同窓会参加は今年で 3 回目です。昨年は、北大名誉教授 藤田正一氏(昭和 38 年入寮)による『北大の源流・日本のオールターナティブ』について講演をいただき、「クラーク博士が種を蒔き、北大の前身・札幌農学校で育まれた清き精神」を学びました。

今年、北大名誉教授 神谷忠孝氏(昭和 33 年入寮、北海道文学館前理事長)による講演会を開催します。神谷先生は日本近代文学の研究者で、とくに北海道にゆかりの深い作家・作品の研究をされております。札幌農学校卒業、寄宿舎の舎監でもありました有島武郎とその精神について北海道の文学風土とともに学びたいと企画しました。

なお、寮歌祭につきましては、「大寮歌祭」(東日本支部主管)が 10 月 3 日に東京で開催されるため、札幌では秋の「ミニ寮歌祭」とでも呼ぶ集いとします。

記

1. 文化講演

- ・ 日時；平成 27 年 9 月 26 日(土)、14：30～16：00
- ・ 場所；クラーク会館大集会室(札幌市北区北 7 条西 8 丁目)
- ・ 講演；北大名誉教授 神谷忠孝氏(北海道文教大学教授)
演題 「有島武郎と北大・恵迪寮」

2. 寮歌の集い

- ・ 日時；平成 27 年 9 月 26 日(土)、16：30～18：00
- ・ 場所；クラーク会館大集会室
- ・ 会費；1,000 円(予定)

詳しくは、恵迪寮同窓会への問い合わせいただくか、同窓会のホームページでご確認下さい。

恵迪寮同窓会

〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 8 丁目 北海道大学クラーク会館 3 階

tel.& fax 011-706-3276 E-mail info@keiteki-ob.jp

<http://www.keiteki-ob.jp/>

なお、北海道大学ホームカミングデーにつきましては、下記のホームページをご参照願います。

<http://www.hokudai.ac.jp/pr/alumni/home/>

2015年恵迪寮同窓会東日本大会のご案内

星霜移り 人は去り 常ならざる世を嘆けども
歌い継がれし数々の 若き想ひは変わらじと
今 懐かしき寮友（ともどち）と 永遠（とわ）の調べを
謳はなん

本年は、3年に一度の恵迪寮同窓会東日本大会が開催される年です。

今回の東日本大会も、帝都東京のビール発祥の地、恵比寿ガーデンプレイス内『ビアステーション』での開催を予定しています。

異なる地点に、同じ北極星（ほし）を仰ぐものの、寂寥と精神の自由のみ、我らが寮友（ともどち）であったことを思い出させてくれるのだ。

さあ、寮友（ともどち）よ、伝統ある麦芽100%のエビスビールを堪能しながら、永遠の歴史に想いを馳せて、声高らかに謳おうではありませんか。

恵迪寮同窓会東日本支部長 坂倉 雅夫（昭和44年入寮）

【ご 案 内】

1. 開識社

- ・日 時：平成27年10月3日(土) 13時00分～13時45分（12時30分開場）
- ・会 場：恵比寿ガーデンプレイス『ビアステーション』（JR恵比寿駅から徒歩5分程度）
住所 〒150-6090 東京都渋谷区恵比寿4-20
電話 03-3442-9731
- ・定 員：70名
- ・講演者：加藤 秀弘（東京海洋大学大学院教授 昭和46年入寮・水産卒）
- ・演 題：捕鯨を巡る近年の国際情勢 ～ICJ国際司法裁判所とIWC国際捕鯨委員会～
- ・内 容：当日のおたのしみ
- ・会 費：無料

2. 大寮歌祭

- ・日 時：平成27年10月3日(土)14時00分～17時00分（13時00分受付開始）
- ・会 場：同上
- ・会 費：ご本人 6,000円、同伴女性 5,000円
- ・申 込：会費納入をもって参加申込みとします。同封の郵便振替払込票に氏名をご記入の上、9月26日(土)までお振込みください。
当日参加申込の場合は会費を夫々7,000円、6,000円とさせていただきます。
払込金額収書は念のため、当日ご持参下さい。

※参加取消：参加取消の場合は9月28日(月)までに下記問合せ先に文書にて連絡頂ければ諸経費1,000円を差し引いて会費をお返しします。

■ 問合せ先：〒176-0021

東京都練馬区貫井4-47-42 関口 光雄気付

恵迪寮同窓会 東日本支部事務所

E-mail：jubesannchinoko@ybb.ne.jp

Fax 03-3926-0080

以上

寮歌その他収録した4種のCDを進呈

昭和30年代入寮の前島一淑（S31）、川原幸則（S31）、金武彦（S37）が中心になり、寮歌その他を演奏（一部歌唱）、録音した4種類のCDを制作。ご希望の方に無料進呈しています。制作意図はそれぞれのCD添付リーフレットに記しましたが、収録曲と演奏者をCD制作順に紹介します。

① 佐藤春夫：酒、歌、煙草、また女

酒・歌・煙草・また女—三田の学生時代を唄へる歌・初恋（日本歌曲）、酒井誠一郎・仁科喜佐男・荒木武夫・恵迪寮OB・千成睦夫（フルート）・一宮明代（ピアノ）。注：この歌については本誌12号（2012）、92-95頁を参照されたい。

② ピアノで奏でる恵迪寮歌撰

都ぞ弥生（川越校訂譜）・藻岩の緑・都ぞ弥生（初版譜）・我が運命こそ・魔神の呪・生命の争闘・春雨に濡る・蒼空高く翔らむと・郭公の声に・嗚呼茫々の・津軽の滄海の・湖に星の散るなり・春来にけらし・時潮の波の・暁の渚離りて・春静寂なる・彷徨へる心のままに・手をとりにて美しき国を・花繚乱の・茫洋の海・うす紅の・沈黙の杜に・熱き街・ストームの歌・水産放浪歌・瑛瑠みがく・別離の歌・都ぞ弥生（短調）。吉崎理華（ピアノ）

③ フルード・ピアノで奏でる宍戸昌夫君 恵迪寮歌三部作

嗚呼茫々の・春未だ浅き・北を恋う。千成睦夫（フルード）・一宮明代（ピアノ）・吉崎理華（ピアノ）

④ 口笛で奏でる恵迪寮歌撰

郭公の声に・黒潮鳴れる・別離の歌・湖に星の散るなり・天地の奥に・時潮の波の・悠遠き日にあこがれて・手をとりにて美しき国を・花繚乱の・茫洋の海・湖落正に秋深し・沈黙の杜に・熱き街・瑛瑠みがく・永遠の幸 柴田晶子（口笛）・吉崎理華（ピアノ）

ご希望の方は、送料としてCD1枚あたり140円切手1枚を添えて、前島宛に郵便でお申し込み下さい。過去に実費を頂いたこともありましたが、寮歌にも著作権があることに配慮し、寮関係者を主な対象とした個人的な配布とします。



まとめて仲間に配る等の理由で一括送付を希望される方もいられますが、すでに別途入手済みだったり重複送付の例もあり、また進呈先の記録を残して次回の企画案内に利用するためにも、個人からの直接請求をお願いします。

寮歌CD作成会幹事 前島一淑

☎225-0011 横浜市青葉区あざみ野3-4-4-401
kazu-mj.0529@swan.ocn.ne.jp

恵迪寮同窓会 新年寮歌始めの会に参加して

小樽商科大学応援団後援会会長 中川 廣太郎 氏 (昭和32年入学)
小樽商科大学 文行寮 OB

昨年の10月、「母校応援団百代記念式典」のポスター掲示お願いの為、久し振りに恵迪寮を訪れました。その際、中央ホールに「平成26年度寮歌候補作品」が二編、壁に張られて居りました。その日がメ日だったそうですが、その作品の一字一字に「北海道大学のアイデンティティ」が今でもしっかりと現役の寮生に受け継がれているのを見て、うらやましくあり、さすがと感じました。そして、「大学の学生文化＝寮の文化」との自分の考え方を再確認させていただきました。

昭和32年、小樽商大の旧「文行寮」に入寮、南は沖縄、北は帯広から集まった六十余名の先輩、同期、後輩の諸氏との「貧しくも又、楽しかった寮生活」は、自分の人生にとって最も貴重な4年間でした。「文行寮精神＝男と男の裸の魂のふれあい」を、ことある毎に声にし、そして寮歌を共に唱い、「共助・連帯」という考え方の大切さを学んだからです。

2011年、「母校百周年記念事業」として、我々同窓一同の想いを込めて、学生文化の新たな醸成を目的として、「輝光寮」が再建されました。今回の歌始めの会に、輝光寮生でもある応援団副団長を参加させていただきました。新「輝光寮」の後輩達が、「恵迪寮」に学び、新しい「小樽商大の学生文化」の担い手になってもらいたいとの期待を込めて居ります。「恵迪寮」の同窓、学生の皆様方をお願い致します。どうかこれを機に、昔の様に新「輝光寮」との交流及びご支援を心から希望致します。



現役応援団員の口上で商大校歌を高唱

「野球でこぼこ道」 パ・リーグ審判歴29年

NPB・審判技術委員 山崎夏生氏
(50年入学)

「プレイボール!」。ただ今、紹介にあずかりました山崎夏生59歳、見ての通りやたらと元気な大男です。身長183センチ、体重は90キロ、「野球界の市川海老蔵」と呼ばれています。ですが、いかがでしょうか?

北大には昭和50年に入学しましたが、残念ながら恵迪寮生ではありません。寮歌やスポーツをやるうと、入寮選考前に仮泊しましたが、割り振られたのが学生運動系の部屋で、肌合いが合わず1週間で飛び出してしまいました。寮生活への憧れはあったので、学部移行を機に体育会の巣窟のような桑園寮に入りました。

た。ここは学内の動物園とも揶揄される、武闘派ばかりでしたから本当に楽しい日々を過ごせました。

さて、5年前に29年間続けてきたプロ野球の審判を引退しましたが、大過も小過もたつぷりとある騒々しい野球人生でした。今は審判技術委員(指導員)という職を任せられ、首都圏の二軍球場で若手の育成に当たる毎日です。野球の現場が何よりも好きなので、この仕事にもまた大いなるやりがいを感じています。

「大きくなったら何になりたいの?」「プロ野球の選手です」、こう答えたのが小学校3年生の頃。以

来、50年以上も野球のことばっかり考えてきました。北大出身者では唯一のプロ野球人ですので、こいつは相当野球もうまかったのだろうなと思われるかもしれませんが、とんでもない! 高校時代は新潟県大会のベスト64がやっと。北大でも投手をやりましたが、公式戦での勝利は1勝のみです。こんな球歴しかありませんが、とにかくこの世界で飯が食えたのは「野球が好きだ」という情熱を持ち続けてこられたからと自負しています。そんな凡人の、仕事に対するひたむきさ、愚直さ、それを支えてくれる家族への感謝、そして努力は必ずや報われるという楽観主義、それらが今回のテーマです。

**大学時代に「野球で飯を食う」と
決意**

さて、まずはプロ野球の審判を目指した経緯から話します。幼少の頃から野球の魅力に取り付かれ、中高校と10年間、泥まみれになってボールを追いかけました。夢は

もちろんプロ野球選手。しかし、臥体はいいものの運動神経が体の隅々にまで行き渡って、いなかっただようで、情けない成績しか残せませんでした。

それでも野球への思いは変わることはなく、大学3年生の秋に大胆にも「野球で飯を食おう」と決意しました。当時は文学部の国文科で、毎日研究室で万葉集やら井原西鶴を読んでいた。こういった勉強もそれなりに面白かったのですが、やはりそれ以上に楽しかったのが野球でした。一生懸命に練習をして正々堂々と勝つこと、潔く負けること、努力が報われる喜び、報われぬ悲しみ、グラウンドで生まれる連帯感、友情、勝利のための創意工夫等々、野球は実人生のすべてを教えてくれるような気がしたので。が、翌秋のドラフト会議では当然、指名がかかるわけもなく、まずはプロ野球の担当記者を目指して日刊スポーツ東京本社に入社しました。ここでやはり野球評論でも書こうと希望に胸を膨らませていたのですが、新人研

修後に配属されたのは意に反して販売局の営業でした。ここで、悩みました。60歳近い今なら、与えられた仕事に生きがいや喜びを見つけ出すのも人生と、若者には諭すでしょうが、当時は野球しか見えませんでした。同期入社の記者が書く記事を売る辛さや野球への渴望感から異動願いを出すものを見送られ、3年が過ぎました。

審判員採用を パ・リーグ会長に直談判

その頃には中学の同級生だった妻と結婚し、長男も生まれていました。時はバブル、給料もよく、仕事にも慣れ、奇妙な居心地の良さも感じていました。しかし、心のどこかで「これで、本当にいいのか」という葛藤はありました。女房・子供に「大志」を目指さない自分の姿を見せたくないという思いは募るばかり。そんな時、テレビの野球中継を見ていて「そうか、選手は無理だろうが審判ならば一生グラウンドに立てるし、自分でもできそうだ」と瞬時に閃いたので



「ベースの幅は新聞紙と同じ」と、ユーモアたっぷりに熱弁をふるう山崎氏

す。すぐに退職願いを提出し、パ・リーグ会長の元へ採用の直談判に行きました。その図々しさに呆れたのか、特例中の特例として、キャンプ地へテスト生としての参加が認められ、1ヶ月に及ぶテストの結果、昭和57年3月、「パ・リーグ審判員、山崎夏生」が誕生しました。

だが、本当のここはここから始まりでした。まず、驚いたの

がプロのスピード感。140キロを越える投球や野手の素早い動き、打球の速さに、目も体もついて行けないのです。審判といえども半分以上はプロ野球の出身者ですし、あるいは高野連や社会人の審判経験者です。まさにド素人がグラウンドでウロウロしている状態がしばらく続き、プレッシャーのかかる場面ではことごとく裏目のジャッジをしてしまうなど、やはり俺には無理なのかとあきらめかけた時期もありました。

さらに生活面でも大ピンチ。年俵はなんと160万円でした。当時の高卒ドラフト外でも最低240万円の時代で、辞めた日刊スポーツでの年収は340万円ありました。『白球』への夢を追いかけて、『薄給』になってしまった……。妻は乳飲み子を背負って働きに出かけ、私もシーズン中は家庭教師、オフには昼は材木屋、夜は塾講師、土日は引越センターでへとへとになるまで働きました。この生活は約10年続き、一軍に出场するようになって、ようやく年俵も人様に言えるようになってきた

の喜びは格別でした。

歴代トップ 17選手、監督に退場通告

それからなんとか周囲の助けもあり一軍に常時、出場できるようになりましたが、まだまだでこぼこ道は続きます。29年間で17人退場させているのですが、これは歴代1位の記録。もちろん自分自身の判定に問題があった場合が殆どですが、悪びれずに「退場！」と宣告するものから、ずいぶん恨まれているような気がします。

21年前にアメリカの審判学校に留学した時、1時間目の授業で教えられた言葉は「BE RESPECTED! (尊敬される人間になれ)」でした。人間は神ではないから間違いもある、それでも判定が支持されるためには選手や監督から信頼され、尊敬される人間でなければならぬ、ということでした。心にしみる言葉でした。ちなみに日本の審判部で最初に言われたのは「間違えるな！」でした。

日本では審判に求められているの

は「人間の判断」ではなく「機械的な正確さ」だけです。権威は認められていません。審判は1回だけ見て、たった1人で一瞬のうちに判断をするのですが、監督やマスコミ、ファンはビデオで何度もプレーを確認してから、我々の批判にとりかかります。ですから勝ち目はありません。99点でもダメ、100点以外は認められないのです。審判員も選手



好走塁の稲葉選手にタッチアウト

同様、一年契約の実力の世界です。年功や学歴は一切関係なし、かつて自分が先輩を食って一軍に昇格できたように、歳をとれば食われる立場になります。プロの世界の鉄則は同じ実力ならば若手を使う、ということ。ですから並べられたら終わり、オフには「クビ」が待っています。

そんなピンチも何度も味わいました。特に厳しかったのが40代前半の二軍落ちでした。直接のきっかけは開幕早々に3試合続けてミスジャッジをしたことです。正直に言えば天狗になっていました。5月に降格し、それこそ息子と同じような年頃の選手とまたイースタン（二軍戦）で泥にまみれました。その時、一軍通算998試合出場しており、プロ入り以来の目標だった1000試合出場は目前でした。でも、もはやこれまでか……。オール・スターにも出たし、開幕戦では球審も勤めたのにというプライドが余計に自分を苦しめました。

幸い、翌年の5月にまた一軍メン

バーに復帰できました。ところが、その直後にまた大トラブルです。3塁塁審でポール際の判定をめぐり、日ハム・大島監督を23分間の抗議の末、遅延行為として退場にしました。そのストレスから彼は試合後に吐血し病院送り。もちろん球団やマスコミからも叩かれました。運の悪いことに翌日は同一カードでの球審、さすがにその晩は、一睡もできませんでした。それでも胸を張って球場へ出かけましたが、グラウンドへ足を踏み入れたとたんの日ハムファンから「帰れ、帰れ、ヤマザキ！」と大コールで、ベンチも殺気立っていました。

でも、「負けてたまるか！ 負けの人生はいやだ、逃げてたまるか！」そんな思いで必死にボールに立ち向かっていきました。その試合はどちらが勝ったかさ覚えていませんが、ところどころ無事に終えましたが、ところどころが帰宅して妻や子供の顔を見たらもういけません。緊張がとけ、ずっとこらえていたものが一気に溢れ出し、へなへたと泣き崩れました。でも、男が必死に仕事に打ち

込み、その結果、大声で泣けるのは幸せなこと。審判業の辛さともにも最大の喜びをも感じた一夜でした。この時、自分はようやく精神面でのプロフェッショナルになった、と思いました。

定年後、異例の指導員に抜擢

そんな野球バカの日々もついに終焉を迎えます。2010年9月15日の朝、NPB（日本野球機構）から電話で定年（55歳）による任期満了で来季は審判員契約をしない旨を告げられました。来季で丸30年となり、一軍での出場も1500試合が見えてきたので残念でなりません。と、同時に来季からは指導員をやってもらえないか、との全く想定外の打診がありました。指導員といえば日本シリーズに何度も出場し、部長なり副部長を歴任したエリート審判がやるもので、一介の審判がやった例はありませんし、そもそも定年後にNPBに残ること自体、初のケースです。その後、審判部長からも「若手の技術指導のみな

らず、社会人としての人間教育から審判総務的な仕事もして、素晴らしい指導員になってほしい」との温かい言葉をいただきました。これだけ期待され、評価されたならもう断る理由はありません。そして引退試合は札幌ドームでの日ハム対西武の最終戦となりました。

涙と感謝の引退試合

その年のパ・リーグは史上空前の大混戦でした。その日の札幌ドームは、両チームのファンで超満員。もちろん妻もこの遠征には帯同し、北大野球部のOB諸兄や寮友も大挙して応援に駆けつけてくれました。彼女には29年間、苦勞のかけつばなしでした。貧乏生活を経験させ、退場騒ぎを起こせば心勞で夜も眠らせず、遠征ばかりで子育てにも悩ませ、炎天下の試合では倒れるのではないかと心配させ、実は現役を早く引退して欲しいと彼女は強く願っていました。

前日の午前中には北大構内を散策し、北大球場に足を運び色々な物思

いにふけりました。ここでの4年間あればこそ、その後の野球人生がありました。最後を札幌の地で終えるのも意味あることでしょう。

当日は、起きた時から異常なほどの緊張感がありました。胃はきりきりと痛むし、胸苦しいし、29年間我が内に居続けたチキンハートの弱気虫に支配されていました。優勝と3



ユーモアと洒落気のある講演に、参加者も大喜び

位のかかった大一番で、しかも超満員の最終戦、30人の大応援団、こんな状況でとんでもないチヨンボをやらかしたらどうしよう、最後の最後に大恥をかくのではないか……。ランチもほとんど喉を通らぬまま、札幌ドームへと出かけました。そして妻が手を握り「お父さん、頑張つてね」と言つてスタンドに消えた時から、ようやく度胸がすわりました。泣いても笑つてもこれが最後、そこで見るジャッジが29年間のすべてなのだど開き直ることができました。メンバー交換前には梨田監督と渡辺監督に今日が引退試合と告げておきました。さて、試合が始まってしまえば、もう完全に通常モードです。来たプレーを見たままに素直に裁けばよだけのこと。プロ的にはクロスプレーちょっと手前の自信満々のジャッジで見せ所も作りました。4回表には渡辺監督がライトフェンス際の捕球に対して、フェンスに当たったのではないかと抗議してきました。自分が一番近いところで見ているのだ、キャッチだ、とはねのけ

ました。「まあ引退試合だから引き下がるけど、あとでちゃんとビデオ見てくださいよ」と言ったので「わかった、次からの試合に生かす」と言っておきました(笑)。1塁側スタンドには「山崎審判、ありがとう」の横断幕が出ていました。「山」と「崎」が交互に並んだうちわも数多く見られました。

サラリーマンでも公務員でも教師でも、審判同様、皆、定年を迎えます。それぞれに一小野生懸命に働きますが、はたして定年の日にこれだけの応援をもらえる仕事などあるのだろうか。たまたまこの仕事を得たため、こうして学生時代の球友や寮友が駆けつけてくれる。そして、こんなにも身に余る声援をもらえる、そう思ったらもういけません。まず涙の第一波が襲ってきました。そしてついに9回裏、劇的サヨナラヒットが飛び出しました。その瞬間、「あっ、終わった……」。心の準備などできていなかったのですが、わずか数秒後にグワッと込み上げてき

ました。そしてスタンドを見上げれば皆が立ち、横断幕が揺れていました。ありったけの気持ちを込め、深々と頭を下げました。そして歓喜のホームベースの脇を駆け抜け、審判室へ戻ろうとするのと梨田監督が待っており、「長い間、お疲れさま」と握手で出迎えてくれたのです。

涙をこらえながら戻った審判室では、今シリーズ、ともに出場した4人の後輩審判から花束を贈られました。「長い間、ありがとう」と言っているうちにもうだめ、大泣きをしてしまいました。こんな良い仲間にも恵まれ、29年間を過ごせたのです。

野球の神様から 最優秀審判員賞の贈りもの

試合後は札幌ドーム近くの居酒屋で応援席にいた方々が慰労会を開いてくれました。ここも泣かせる演出満載でした。野球をやって以来、初めて手にするトロフィーには「最優秀審判員賞」と刻まれ、北大野球部・桑園寮OB有志より、とありました。

さらに妻には素敵なストラップが贈られ、花束も手渡されました。気丈でクールな妻が人前で涙を見せるなど、めったにないことです。

振り返れば、たいしたセンスも才能も無い、凡庸な審判人生でしたが、ただひとすじに打ち込めた29年間でした。今は最後のこの試合のために辛く苦しい日々があったような気さえしています。

きつちりと長い間、まじめに勤め上げれば最後にこんな素晴らしい褒美を野球の神様からいただけるのです。諦めない心と強い体を持ち、皆がこんなにも素晴らしい引退の日を迎えられるよう、これからの若手を育てていこうと思っています。

(日本野球機構・日本プロフェッショナル野球組織・審判技術委員・千葉市美浜区)

「自然エネルギーを地域で活用する試み」

北大北方生物圏フィールド科学センター 教授 荒木 肇氏
(S49年入寮)

学生時代、 70年代、寮生活を振り返る

先ほど紹介されました北海道大学北方生物圏フィールド科学センターに勤務している荒木肇と申します。1974年(昭和49)に北大理類に入学し、78年に農学部を卒業しました。学生時代は恵迪寮と北学寮で4年間、寮生活でした。恵迪寮では4号、10号、51号および17号で生活したと思います。寮生大会の議長も経験しました。1年時には北大祭の事務局も担当し、ナイトハイクで酔ったことを覚えています。北大祭企画

で上条恒彦を呼ぼうとしましたが、正式ルートだと、膨大な経費が必要だと分かり断念しました。

本日ここに参加した方の多くは60、70年代に学生時代・青春時代を過ごされたと思います。ちょうど高度経済成長時代でしたが、多くの社会現象が私たちに刺激を与えてくれ、正義とは？ 幸福とは？ 民主主義とは？と問いかけてくれました。社会・文化事象としては、東京オリンピック、新幹線、テレビ・マイカー、札幌オリンピック。社会・政治問題としては沖縄返還、ベトナム戦争、長沼ナイキ基地訴訟、安保

闘争、中流意識、心臓移植、水俣病を代表とする公害問題が続きます。私の出身地は栗山町で、長沼ナイキ基地からは10キロしか離れておらず、長沼訴訟の違憲判決は衝撃的でした。札幌から栗山に帰る時にはいつもミサイル台が見えていました。数年前から、いつともなくミサイル台が馬追山から消えています。当時は仮想敵国「ソ連」への対応と説明されていましたが、結局一度も使用されずに退役したわけで、これも平和希求があつたからでしょう。

私の実家は農業で、60年代には父母は水田拡張し、家の近く売り農地がでると水田として購入していきましました。当時5月の田植え時期は小・中学校とも休校でした。ともかく子どもは苗を運び、多くの出面さんにより田植えがなされていきました。その後には田植え機が普及してきます。1970年からは減反政策がはじまり、私の家もその影響を受け、父は夏に土木作業、家は母が農作業の時

期が数年ありました。いくつか米以外の作物を試し、結果的にはタマネギにたどり着きました。2月に除雪をしてハウスを建て、その中で播種したのですが、ハウスを建ててから北大入試に来たことを覚えていません。

大学の講義評価や学生気質もずいぶん変わりました。学業成績に秀評価が加わり、可1点・良2点・優3点・秀4点で平均点を算出して学部学科移行点を出しますが、3・5を超える学生が結構います。かつて「必修科目に出るな」と言った凄い先生の話が脳裏をよぎります。当時の農学部農学科では、研究室の全員で実験の作業をしていました。その作業は必修授業よりも意義があると暗黙に了解されていました。その日は育種研究室で田植え作業があったのですが、ある研究室の学生は作物学（必修科目）の授業に出ていました。すると、その教授は、「君はなぜ授業に出ているのか。育種研究室は今日田植えでないか、行きなさい」と諭しました。今では考えられない

ことです。北大ではさらに来年には学業成績が11段階で採点されます。

新潟での生活が人生の糧

私は北大で学位を取得して、農学部画助手になりましたが、研究のゆきづまりもあり、新たな地に職を求め、新潟大学に赴任しました。新潟には1991年から2003年まで住んでいましたが、ここでの生活があるから今の私があります。新潟大学では「仲間」を強く意識することになりました。講義でこんな大喜利を作りました。「コシヒカリとかけて 恋愛模様と解く」。ここは「捨てる神あれば拾う神あり」。コシヒカリは新潟農試で農林22号と農林1号との交配で育成されましたが、新潟県の優良品種に採用されず、福井県で「越南17号」としてその後の研究が継続されました。味は良いのですがいもち病に弱く、倒伏しやすい欠点がありました。痩せた地の魚沼で栽培に成功し、農林100号として新潟県で優良品種に登録されました。

た。コシヒカリとは「越後の国に光輝く」との意味ですが、件の大喜利は「失敗にくよくよせず、前に向かって進め」と、学生を励まそうという問答です。

東日本大震災から エネルギーを見直す

もうすぐ東日本大震災から4年になります。原発事故のために、まだ10万超の人が故郷の帰れない事態が続く、放射能汚染水はあふれ出しています。この事故で日本のエネルギーはこのままでよいのだろうかと考えた人も多いと思います。私もその時、不自由なく電気をつかう電力浪費型の社会に疑問を持ちました。「コンビニ24時間オープン 長期間労働 オール電化」は本当に正しいのだろうか？ その後、原子力は核反応が開始したら、停止以外に制御できない。夜間も電力を作り続ける。値下げしてでも電力を使う必要があることを知りました。もともと「使用済み核燃料はどうやって処分するのか」、「老朽化した原発施設を

どのように安全に解体、撤去するのか」との疑問がありました。90年代から化石燃料の限界は警告されています。私たちの生活様式そのものを見直し、新しいエネルギー獲得や利用に私の関心も動いて行きました。

自然エネルギー（再生可能エネルギー）との出会いは2008年頃でした。工学部の先生との共同研究もあり、作物残渣をペレット燃料にできないか試行錯誤していると、米の乾燥機にぶつかりました。北海道の主要な農作物生産での燃料使用データがあり、稲では灯油使用が多い特徴があります。これは米粃乾燥に灯油が使用され、その量は12・9L/10a必要です。この灯油の熱量は480MJです。稲は米収量と同等重量のわら乾物を作ります。玄米の平均収量が520kg/10aなら520kgのわらができますが、ワラ発熱量は15MJ/kgで、520kgのワラからは7800MJのエネルギーが得られます。もちろん熱を供給するシステムが必要ですが、稲わらには自身の米を乾燥させる熱量は潜在

的にあるといえます。

2008年に米国・マサチューセッツ州で水力発電での木工所を見学し、2010年にはドイツ・ミュンヘンで牧草を乳酸発酵させサイレージ（家畜餌）をつくり、これを原料にしてメタン発酵させるバイオバイオガスを見学しました。飼料を輸入している日本ではサイレージをエネルギー資源にすることは無理な発想ですが、日本型のエネルギーに目を向けるきっかけになりました。

リゾートホテルの温泉廃湯と

余剰熱でアスパラ栽培

捨てているエネルギー（熱）をうまく使おうと多くの人が考えるようになっていきます。日本は火山国ですから温泉は多数あります。地震国の裏返しでもあります。さらに保養所などところも多数です。入浴後のお湯も約30℃あります。これに着目したのは、夕張リゾート・ホテルマウントレースイと設備会社の建産業です。温泉浴場に隣接して農業ハ

ウスを建てます。これまで川に流していた入浴後の廃湯を一時的に貯湯槽に溜め、そこで熱交換した約30℃の温水を、ハウス内のベッド底面に流します。さらに温泉機械室の余剰熱をハウス内に取り込みます。ベッドにはアスパラガスの根株を密に植えると、熱交換温水循環後（加温開始後）3週間でアスパラガスが伸び



てきます。温泉機械室の余剰熱でハウス内も凍害が発生しません。

萌芽開始直後は太いアスパラガスがですが、後半には細い茎も出てきます。このアスパラガスは市場には出荷されず、すべてホテルユース（正品は土産 細品はチャーハン・スープ等）ですので、規格外はなく使用されます。

コスト計算もしてみました。灯油暖房機や電気ヒーターを導入すると27万円必要ですが、このシステムをつくると55万円、2倍かかります。冬季アスパラ生産ということでは4か月間（12〜3月）のランニングコストをみると、電気暖房なら39万円、灯油暖房なら33万円ですが、このシステム（温水循環 空気送風）は3万円です。つまり、システム設置にかかる経費を1シーズンのランニングコストで帳消しにします。ベッドのみを加熱していることも、効率的（省エネ） 加温システムといえます。温泉廃熱利用は、どこでもできるローテクノロジーです。何もハイテクである必要はありません。アスパ

ラガスの萌芽に必要な温度環境ができればよいのです。つまり、身近に使えるものがあると気付くことが重要で、このような温泉アスパラのよな成功事例を重ねていくことが自然エネ活用のカギと感じています。

登別温泉では豊富な湯量や高めの排水温度に注目して、ベッドの局所加温ではなく、ファンコンベクター（家庭や旅館での室内暖房機）に排湯を流して、ハウス内を加温・保温しました。時間はかかりましたが、ベッド地温も15度以上になりました。自然エネルギーの存在形態や量は地域によって異なります。地域毎で最適方法を考案すればよく、地域がみなオリジナリティーを持ちます。

夕張の閉校舎活用で 共生ファーム支援

夕張市に所在する社団法人「らぶらす」は福祉事業を営み、2013年には厚生労働省の助成金により夕張共生型ファームを開設しました。これは不朽の名画「幸せの黄色いハ

ンカチ」のロケ地近くにあった夕張小学校の閉校舎を活用した障がい者向け就労支援事業です。職員室を改造して市民交流カフェを作りました。体育館はヨコタ設備株の協力を得て自然エネルギー活用の野菜生産場です。障がい者は市民交流カフェと野菜生産場で一定の仕事がします。ヨコタ設備と共同で、閉鎖していた夕張メロン通年栽培施設を借用、現地にある自然エネルギー活用に目途をつけて共生ファームでの自然エネ・野菜づくりにチャレンジしています。活用している自然エネルギーは地中熱、雪冷熱、堆肥熱、そして小水力発電です。

肥発酵熱の活用

地下水は13、14度で一定ですが、地中深くほど地温は一定温度になります。では地表に近い「地中」はどうかというと、1m深では地温は外気と同じように変動します。しかし、2、3m深になると日変化は小さくなり、ゆるやかに季節変化していきます。2、3m深の地温は、盛

夏8月には14、15℃で9月にピーク（約16度）を迎え、晩秋から徐々に低下して3月には最低4、5度になります。地中では地上に比べて1か月遅れて地温が変化していきますが、日変化は極少です。つまり、地下水ほど通年一定温度ではないにしても、盛夏でも14、15℃の冷温、厳寒時期でも4、5℃のプラス域の温度を示し、それぞれの時期での冷却や保温に利用できます。

体育館近くに地中埋設型の貯雪槽をつくり、4月に雪を入れます。貯雪槽は天然の冷蔵庫で、アスパラガスやチコリーの根株を貯蔵できます。貯雪槽の底部には不凍液を充填したポリパイプを敷いてあり、ポリ管内部は0・1℃です。この雪冷水をポンプで移動させると、どこでも冷却することが可能です。

堆肥内部では好気性微生物が活性化して、内部温度は60℃近くまで上昇します。この発酵熱を地下貯湯槽に回収します。堆肥化は生物現象で、温度上昇には堆肥製造時からかなりの時間が必要です。乳牛糞尿か

らの堆肥製造時に、スクリーンプレス型の固液分離機を使用すると、含水率は70%近くまで低減し、汚物感のない堆肥が製造されて短時間で内部温度が上昇します。

複数熱源で温度制御

私たちは複数熱源での制御を考えました。体育館の中にビニールハウスを建て、その中に栽培ベッドを置きます。地中3m深に径15cmのパイプ（スパイダルダクト）を100m敷設し、その中に体育館で吸引した空気を送って熱交換されて戻ってくる空気をハウスに放出します。栽培ベッド周囲温度を夏季には若干冷却、冬季には若干保温します。そして、夏季には栽培ベッド内に雪冷水を循環させ、冬季には堆肥発酵熱による保温水を循環させ、ベッド内を15、16℃に制御してチコリーを、20℃に制御してホワイトアスパラガスの根株を定植した。これらの野菜はともに定芽のある栄養体（塊根や地下茎）があり、萌芽する温度を設定することで収穫できます。チコリー

は厳格な温度管理が必要で、10℃以下なら萌芽せず、20℃近傍なら萌芽しても結球せず、15、16℃の制御が必須です。萌芽時に光が不要なことも重要な特性で、温度さえ制御できれば建物内での周年栽培が可能となります。とはいえ、体育館は断熱性に乏しく、真夏は30℃超、真冬は氷点下になり、適温に制御できない時期もあり、まだまだチャレンジ



自然エネルギーを駆使したチコリー栽培に草花愛好者の関心が集まる

は続きます。

夕張小学校の南側は冷水山（レースイ山）で、一部がスキー場です。

この山にあった炭鉱口からの湧水（鉱泉）をみつけ、水量は毎秒24 Literでした。この湧水を集め、約13 m落下させて小水力発電をしています。発電量は1kWですが、これでも地中熱の空気吸引と循環、ベッドへの温水と冷水の供給・循環には充分であり、夏にはクランド農園の電気牧柵の電源等にも使用しています。

この発電で重要なことは、冷水山は夕張市所有で、夕張市の許可のもと湧水が無償で使用させてもらっていることです。つまり、河川を使用すると管理官庁や水利組合、漁業者の承諾等が必要であるが、冷水山では不要になります。水力発電は24時間発電であり、発電電気を利用した「店産店消」の卓上植物工場や、電子楽器の演奏会も可能です。

なぜ今、自然エネルギー こだわるのか？

電気料金の値上げがありました。

「原発を再稼働するか、それとも電気料金の値上げか」この選択に矛盾や疑問を感じる人は多いと思います。2014年3月に北大経済学部の吉田文和先生を招いて、自然エネルギーに関する勉強会を開催しました。対極には原発があります。私たちが自然エネルギーにこだわる理由の根本は「次世代に負の遺産を残さない」ことではないかと討論しました。「今がよければ将来はどうなってもよい」「競争に勝てばよい」と考える社会に警告を鳴らす世論が増えています。私も、人としてあるべき社会を考え、論ずることが年配者の役割と考えています。

自然エネルギーの普及には、小さくても成功事例を積み上げることが重要です。私は大学の研究者として、データを収集して成功要因をまとめ、社会に還元することが役割で

す。皆様もオリジナルのエネルギー活用を考えてみてください。仲間がたくさんいます。

ご静聴ありがとうございました。

（北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場教授・札幌市東区）

情報化時代と恵迪寮

第304期執行委員長 道 信 有 真

(H24年度入寮)



社会の情報化がさらに急速に進んでいるように感じます。最近ではFacebookやTwitterなどのSNSの普及によって、個人が簡単に情報を発信できるようになりました。これらのツールは非常に便利で手軽なものではありますが、時にはあまり望ましくない結果をもたらすこともあるようです。

NHKドキュメントに出演して

恵迪寮においても、このような情報化の影響は感じられるところでもあります。先日NHKで放送された「ドキュメント72時間〜北の大地の学生寮〜」はご覧になったでしょうか。私自身も寮長選挙の候補者として出演？した一人ですが、番組放送後、恵迪寮に関する考え方や意見が

インターネット・SNSでよく発信されました。番組で放送された内容について懐古する人、拒否感を示す人、面白そうと思う人など、多様な反応が見られました。このように情報が簡単に発信でき、さらにその情報が不特定多数の人間の目や耳に入る可能性が増加しています。この可能性の増加こそが恵迪寮に大きな影響を与えているように思います。

これまで恵迪寮は、そこに住む学生自身で考え、自分たちの問題と捉えたことを話し合い、大学とも協力しながら問題解決を図ることでよりよい生活を模索してきました。しかし、情報化により、内部の人間に留まらず、外部の人間による寮への見方が簡単に不特定多数の人間が受け取ることができるようになっていま

す。これらの外部の見方をどのような捉えてこれから先の寮運営を行うかということが、将来、寮が向き合うべき問題となるのではないかと予想しています。

直接コミュニケーションの必要性

もちろん恵迪寮という学寮における生活の基本となるのは、インターネットを介した人間関係ではなく、直接コミュニケーションをとる人間関係です。寮生それぞれが直接の人間関係をたくさん作り、それらの人間関係が複雑に絡まり合い、この寮を創っています。恵迪寮から生まれるかけがえのない思い出と精神は、このような直接の人間関係によって形作られ、現在まで継がれてきたものと思います。この精神を大切に、我々も次代へ継いでいきたいと切に願います。

(農学部3年)

恵迪寮に初の女性委員長（寮長）誕生

明治40年の寮創建以来、男性の寮長が続いてきた恵迪寮に初めて女性委員長（寮長）が誕生した。

第305期恵迪寮委員長に就任したのは、工学部環境社会工学科3年中川智美さん（20）。立候補者が彼女一人だったため、5月末の委員長選挙（信任）で決まった。任期は6月1日から11月30日まで半年間。

現在の新々寮に女子ブロックが設けられたのは平成6年7月。その後、女子ブロック枠の拡大とともに女子寮生も増加、現在は全体の6分の1、約80名が在寮している。

女性目線で住みやすい寮を

東京都出身の中川さんは2年前、入寮と同時に当時の委員会にも参画、男性主流の寮にあって女性目線で衣食住の寮生活改善と向上に努めてきた。

しかし、これまでの体験から「めいめい自由気ままに生活するのが理

想ですが、500名からの集団生活を維持していくには一定の秩序や効率の良さが必要」と考え、委員長に立候補したという。

今、大きな問題になっているのが築30年超で老朽化が著しい恵迪寮の大規模修理計画。工事期間中寮生の募集人員を減らすという大学当局案を、寮委員会側はその間、寮を必要とする多く学生が犠牲になるとして拒否、暗礁に乗り上げている。「委員会の考えもある程度理解できますが、原則論ばかり主張すると決裂は目に見えています。今後、機会があれば大学当局と交渉を続けていきたい」と、話し合い路線を強調する。

行動力のあるリケジョ

また、最近多数を占めるようになってきた、寮歌や寮の行事にあまり興味がないとか、寮を単にアパートの個室として考えているような無関心派にも「他大学に例を見ない歴

史ある恵迪寮に入った意義を今一度考えてほしい」と訴える。

北海道の大自然に憧れて北大を受験。専攻学科は素晴らしい北国の自然と生活環境の調和を目指す衛生環境工学コース。とくにバイオマスの研究を希望しており、行動力のある「リケジョ」に寮生の期待は大きい。



平成26年度寮歌 「姫月に重ねて」

応援団員と応援吹奏団員のコラボ

ここ数年、軽快なリズムに、若者らしいフレーズが主流になっていった寮歌だが、久々に重厚な文語体の本格派寮歌が誕生した。

作詞は応援団員の松元一平君（平成25年入寮）、作曲は応援吹奏団の寺尾佳隆君（同）。共に平成25年入寮の文学部2年生で、「寮歌命」の寮生。同室だった1年目に「一緒に寮歌史に残る本格的な寮歌を作ろう」と意気投合。歌詞は松元君が漢詩や辞典を参考に作ったオリジナルな詩歌に推敲を繰り返して半年がかりで完成。重厚ながらも優美でかつ、ロマンティックな歌詞は平成寮歌の中で一味違う閃きがある。この詞に寺尾君が長野・野沢北高校吹奏楽部時代から得意だったトランペットで作曲。漢文調の歌詞に高音のトランペットが見事に調和して聴く者に語りかけるような美しいメロデーになった。

平成26年の寮歌応募作は歌詞9点、作曲11点。近年まれにみる激戦だったが、両君の心が通じ合った寮歌が僅差で選ばれた。

部活動やアルバイトで多忙を極めたせいか、二人とも仲良く留年したが、「恵迪寮で得た友情や寮歌作りの経験はこれからの人生にきつと役立つはずです」と、若者らしくすがすがしく語っている。



寮玄関ホールに掲げられた自作の寮歌を背に
(右・松本、左・寺尾君)

平成26年寮歌 「姫月に重ねて」

松元 一平君 作歌 寺尾 佳隆君 作曲

観月過ぎゆく晩秋の夜、蒼穹の天空高く舞ひたる月は今宵満つるかな。
その清輝に映えし姫が鏡水は、鹿が純瞳に宿らむ。
月影は鹿を誘ひ来たりしこの神無月に何をば見せむ。

一 時移ろいて 人世は変われども

今宵も満月は我らを照さむ 夜の邪張をはらはむと
流歩む汝は楡に似たれど 風流を掴まむ芽に感ず
風習に付和せし 狗と成らざらめや
さて映りこむ 我が鏡瞳に
風習だに愛づる その気概

二 清澄みたる想ひ 知る由もなく

今宵の三日月は川面に映らむ かの日月影とは違へども
人世に充つ解答(いらへ)を自ずと心得 此れは汝の求望にか
張る想い などが劣らむ
さて映りこむ 我が鏡瞳に
身を委ねばや その清流

三 静と唸りし 雨滲したたれば

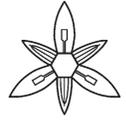
今宵も我は朧月を仰がむ 姫が麗姿を追憶ふべく
汝が想ひは涙と落流れ 透かし斜光にさらさるる
閉じなむ凌雲よ こひ願はくは
さて映りこむ 我が鏡瞳に
嗚呼汲まれたし その厭心
悲しかりけむ晩秋の夜は 月影映えて人影も追ひ得じ

(了無し 繰り返し無し)

姫月に重ねて

寺尾佳隆君 作曲

Musical score for the song "姫月に重ねて". It features a single melodic line in G major with a 4/4 time signature. The tempo is marked as quarter note = 92. The lyrics are written below the notes. The score includes a first ending (1.2) and a second ending (2) at the end. The lyrics are: と き う つ ろ ひ て よ は か は れ ど も こ よ い も つ き は わ れ ら を う つ さ む よ る の と ば り を は ら は む と あ ゆ む な ん じ は に れ に に た れ ど か げ を つ か ま む め に か ん す な ら ひ に ふ わ せ し く と な ら ざ ら め や さ て う つ り こ む わ が ま な ざ し に な ら ひ だ に め づ る こ の お も ひ ろ かな し かり け む あ き の よ は つ き かげ は え て かげ も お ひ え じ



恵迪寮同窓会通信



事務所…〒060-0808

札幌市北区北8条西8丁目

北海道大学クラーク会館3F

電話兼Fax(011)706-3276

vol. 31

恵迪寮同窓会第13期平成27年度理事会報告

恵迪寮同窓会代表幹事 白浜 憲一（S40年入寮）

平成27年4月18日(土)、16時～20時30分、札幌パークホテルにおいて、恵迪寮同窓会第13期平成27年度理事会が開催されました。会議には東日本2名、西日本3名を含め32名の役員、理事、監事が参加されました。

横山会長の挨拶に続き、ご来賓の三上隆北大副学長が、北大近況報告と本年のホームカミングデー（9/26）、大学改革への協力依頼など北大の現況についてのお話を頂きました。

会議では第1号～第3号議案、第1～第2報告について、執行部の報告・提案に基づき討議が行われ、原案は全会一致で承認されました。同窓会30年の地歩を固めつつ会費納入会員の拡大を図り、恵迪精神の発揚と寮歌の継承を二本の芯柱とした組織的・財政的により強靱な同窓会作りに取り組むことを確認しました。また、新たな事業として「三種の都ぞ弥生CD」を制作することも決まりました。

〈恵迪寮同窓会役員〉（平成27年4月現在）

○名誉会長 中瀬篤信（S26、前会長）

○会長 横山 清（S31）

○副会長 藤田正一（S38）、内藤春彦（S40、北海道支部長）、坂倉雅夫（S44、東日本支部長）、植

松高志（S44、西日本支部長）

○特別顧問 高井宗宏（S31）、新井三郎（S32）

○相談役 高橋陽一（S30）、小笠原孝之（S31）、山崎

克彦（S32）、和孝雄（S32）

○会計監査 吉原照彦（S36）、佐藤市雄（S38）

○本部理事

【北海道支部】氏平増之（S38）、宮田睦彦（S38）、魚山和

春（S39）、千川浩治（S40、文常）、村上昭

男（S43）

【東日本支部】関口光雄（S39）、平田更一（S40）、加藤秀

弘（S46）、荒木隆夫（S49）、竹下忠彦（S53）*

【西日本支部】藤井洋治（S37）*、浦谷義博（S41）、木村

成二（S46）、岩井隆郎（S51）、井上英樹（S61、

新任）

○代表幹事 白浜憲一（S40）

○副代表幹事 皆川吉郎（S43、会計）、吉沢武治（S45、組

織）、谷口哲也（S48、事業）

○常任幹事 大隈昭二（S40、編集長）、八重樫幸一（S41、

広報）、野本健（S47、文常）、岩崎正（S47、現寮）

○幹 事 木村正博（S41、文常）、佐々木宏治（S42、

現寮）、岩本栄一（S44、会誌）*、佐藤文雄

（S47、会誌）*、都野建二郎（H7、現寮）、

淵上玲子（H8、女子部）

○事務局長 佐藤市雄（S38） 事務局員 大隈昭二（S

40）、佐藤静子

出席：32名、欠席：12名（アンダーライン）、うち

委任状：5名*印

●本部理事補充者：規約第7条 理事は会長が指名する。

●顧問推薦者：規約第14条 顧問及び名誉会員は、会長が推薦し、理事会において承認する。

▽会長挨拶：横山会長より、「同窓会結成30数年経過し、高齢化と財政問題という2つの課題を抱えているが、各位の努力も有り行く末も心配なからう。」とのご挨拶。

▽来賓挨拶：三上隆・北大理事（総括、評価、広報、情報公開、内部統制、リスク管理、同窓会、施設・環境、防災等）担当副学長より、「北大近況報告と本年のホームカミングデー（9/26）、大学改革への協力依頼」が行われた。

〈第1号議案〉 第13期平成26年度事業・決算報告

1. 第13期平成26年度事業報告 ↓ 白浜代表幹事より特筆すべき活動として、①組織の横糸としての○○年次の会の結成・集い実施、②グッズ（オルゴール・DVD等）販売で財政充実、③恵迪精神の発揚・発信の為、現寮生

との討論会、文化講演会の実施：の3点について要点が報告された。

① 会議の開催

i 第13期平成26年度理事会：平成26年4月19日(土)

札幌パークホテル

○第12期平成25年度事業・決算報告 ○支部交付金

○第13期平成26年度事業計画と予算案

○平成26年度「大寮歌祭」（西日本支部主管）

○恵迪寮同窓会3支部の平成25年度活動報告及び平成26年度活動計画

ii 本部役員会：8/3、3/2

iii 本部幹事三役会議：6/4、12/6

② 「○○都・府・県恵迪会」又は「○○ブロック恵迪会」の結成

i 組織強化費として、特別予算

③ 組織委員会

i 名簿とメールアドレスのクリーニング

ii ○○恵迪会の結成促進：39・40会（入寮50周年、

9/12、京都宇治「鮎宗」、30名、44・45会（1/31、札幌）、46・47・48会（1/31、札幌）、58・59・60会（入寮30周年、3/21、丸駒温泉、30名）

iii 入会促進活動

④ 会計委員会

i H26年度会費等納入状況

ii 恵迪グッズ販売と在庫

⑤ 事業委員会

i オルゴール 36台販売（115万円）、藤田本 70冊販売（14万円）

⑥ 会誌編集委員会

i 会誌「恵迪」第14号発行 ・発行費126万円
広告掲載収入38万円

⑦ 文化活動常任委員会

i 第56回北大祭（6／5～6／8）での「清き国ぞとあこがれぬ」上映会

ii 北大祭での「研究発表―恵迪寮の自治とくらし」
現寮生5名、同窓生10名

iii 北大ホームカミングデー2014参加 9／27
「文化講演と寮歌の集い」

iv 開拓の村新規「映像システム」として大型フォト
フレーム導入

⑧ 広報委員会

i HPのリニューアル及び資料の修正・追加

ii メール一斉配信の活用

iii Facebookの立ち上げ

⑨ 現寮委員会

i 恵迪寮保管の寮史関係資料の保存・管理：北大文
書館に寄贈保管

ii 寮規則をめぐる大学との交渉経過と同窓会支援

⑩ 全国3支部の活動（第2報告）

2. 第13期平成26年度決算報告と監査報告

① 平成26年度決算 ↓皆川副代表幹事より、別紙「収

支報告書」の説明・報告がされた。

会費収入とグッズ販売等事業収入増加で大幅収入増。
片や支出も、運営費は事務所がクラ館とラルズの並行
運営で増加、事業費は会誌発行・グッズ製作などで増
加し大幅増加したが、収支差は63万円を繰越金とした。
基本金は1505万円となった。

② 平成26年度決算監査報告 ↓ 吉原会計監査より、
監査報告

（質疑）①「連合同窓会から会員一人当たりいくらか出
ているのではないか」

「会員名簿を出してもらい、要請があれば
支援金を出すことになっている。（三上
副学長）」

「連合同窓会の収入は企業の就職説明会に
よる収入だが、わが恵迪寮同窓会は支援
金を要求したことが無い。（横山会長）」

②「事務所がクラ館に移ったが、北海道支部も
事務所費を負担すべきではないか」

「北海道支部の通信・印刷費はすべて支部
役員個人のポケットマネーで賄ってい
る。」

「クラ館事務所に出入りするのには本部役員
兼務の活動の為であり、支部活動で事務
所費を負担する理由は見当たらない。」

（北海道支部幹事長）

…日26年度事業報告・決算ともに承認可決された。

〈第2号議案〉 平成27年度支部交付金の配分

支部名	平成26年度会費の納入内訳						交付金額 50%	平成27年度 支部交付金
	年度会費		終身会費		計			
	人数	金額	人数	金額	人数	金額		
北海道	94	282,000	1	30,000	95	312,000	156,000	156,000
東日本	147	443,000	1	30,000	148	473,000	237,000	237,000
西日本	77	231,000	1	30,000	78	261,000	131,000	131,000
その他								
計	318	956,000	3	90,000	321	1,046,000	524,000	524,000

：各支部「前年度会費納入実績の半額」の基本で、上記金額にて承認可決した。

〈第3号議案〉 第13期平成27年度事業計画と予算案

1. 第13期平成27年度事業計画（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

↓ 白浜代表幹事より重点提案：組織の縦糸・横糸強化の為、地区（都府県）恵迪会や〇〇年次の会の更なる結成・集いの実施などの取組方針が示され、H6・7・8年次がこの夏、土幌小屋チセフレップにて入寮20周年の集いを挙げる計画が紹介された。

① 同窓会活動の基本は会員増強と強靱な同窓会構築

- i 恵迪寮同窓会の2つの支柱
 - 恵迪精神の発揚と発信 *be gentleman with a lofty ambition* ～自治寮の貫徹
 - 寮歌の継承 自然主義の潮流、求め続ける清き国未来像

ii 布を編む如き網状組織の拡充

- 縦糸を太く：3支部の活動と地区恵迪会
- 横糸を綿密に紡ぐ：時代と生活の場を共有した入寮年次ごとの会の結成促進

iii 健全な財務基盤の充実

- 会費納入会員の増強
- 事業活動の展開

② 円滑な委員会活動の展開（分担と集中）

i 各委員会の定期的開催と実行委員会方式

○各委員会の定期的開催

○実行委員会方式：企画ごと

ii 本部幹事三役会議での情報の共有と集中

○メンバーは代表幹事、副代表幹事、常任幹事、事務局長、北海道支部長

③ 第13期平成27年度理事会開催・平成27年4月18日(土)、札幌パークホテル

④ 本部役員幹事会開催・年2回

⑤ 本部幹事三役会議と各委員会開催・随時

⑥ 組織委員会 ↓吉沢副代表幹事より別紙資料により報告・提案がなされた。

i 名簿とメールアドレスのクリーニング

ii ○○都府県恵迪会・○○ブロック恵迪会の結成支援：組織強化特別予算

iii ○○恵迪会の結成促進

iv 入会促進活動

↓ 東日本大会準備支援のため、最新名簿情報を5月中に提供する。

⑦ 会計委員会

i H27年度会費。運営支援金徴収

ii 恵迪グッズ販売

⑧ 事業委員会 ↓谷口副代表幹事より「写真集」拡販企画の説明・提案がなされた。

i 写真集「青春の北大恵迪寮」の企画販売

⑨ 会誌編集委員会 ↓大隈編集長より別紙資料により

説明・提案がなされた。

i 第15号発刊スケジュール・発行日7/上旬、120頁、3800部 ↓4000部印刷

⑩ 文化活動常任委員会 ↓野本常任委員長より別紙資料により説明・提案がなされた。

i 北大ホームカミングデー2015参加企画

9/26「文化講演と寮歌の集い」(仮) 有島武郎の文学と北大恵迪寮

北大名誉教授 神谷忠孝氏(S33入寮)

ii 三種の「都ぞ弥生」CD制作計画

・インストルメントCD、外国語版CD、アンビシャス・レクイエムCD

・制作委員会

・CD制作：デユプリケーター購入(予算30万円)

iii 開拓の村「映像システム」新規USB追加

⑪ 広報委員会 ↓八重樫常任委員長より別紙資料により説明・提案がなされた。

i HPのリニューアルと資料の修正・追加

ii メール一斉配信の活用について

⑫ 現寮委員会 ↓岩崎常任委員長より別紙資料により説明・提案がなされた。

i 寮規則をめぐる大学との交渉経過と同窓会支援

ii 現寮との交流

：現寮の大規模改修について、三上副学長より「先ほどの報告内容では、文部省予算によるものでなく、本学内予算による改修案のようだ。自分のところに

は報告は上がってきていない。」との説明があった。
⑬ 本部事務局の移転と新事務局体制 ↓白浜代表幹事より経過説明・提案がなされた。

i 4/1より本部事務局をクラーク会館3Fとする
ii 新事務局体制

事務局長 佐藤市雄 (S38) 事務局員 大隈昭二 (S40)、佐藤静子

iii 原則週3回(月・水・金)

2. 第13期平成27年度予算案

① 第13期平成27年度予算案

↓ 皆川副代表幹事より別紙「H27年度収支予算書」の説明・提案がなされた。

過去5年間の平均に本年の事業計画を勘案して予算組した。前向きな取組予算である。

∴H27年度事業計画・予算を、承認可決した。

〈第1報告〉 平成27年「大寮歌祭」(東日本部主管)

1. 開催日…平成27年10月3日(土)

第1部 総会

第2部 大寮歌祭

2. 参加費

↓ 10/3、東京・恵比寿にて、開識社・支部総会・大寮歌祭を開催する計画で、詳細確定次第案内する旨の説明報告がなされた。

〈第2報告〉 恵迪寮同窓会3支部の活動報告と活動計画

1. 北海道支部(別紙参照) ↓ 八重樫北海道支部幹事長より報告。

2. 東日本支部(別紙参照) ↓ 坂倉東日本支部支部長より報告。

* 4/4山中義正前東日本支部長が逝去された。折を見て墓前に献歌の予定である。

3. 西日本支部(別紙参照) ↓ 岩井西日本支部幹事長より報告。

* 西日本でも〇〇年次の会を考えてみたい。

1. 東日本支部

〔1〕平成26年度活動報告

(1) 恵迪寮同窓会理事会に出席

平成26年4月19日(土)に開催された同上理事会に、当支部より成ヶ沢支部会計監査が出席し当支部活動の報告等の議事審議に参加した。

(2) 地域恵迪会の活動

組織強化のため、東日本支部の命題の一つである地域恵迪会支援に取り組んだ。

「第3回仙台・東北恵迪会寮歌祭」の活動支援のため、平成26年7月5日(土)の寮歌祭に長谷川支部会計が参加した。今後も当支部受け持ち地域に恵迪会の立ち上げを目指して取り組んでいきたい。

(3) 草刈り寮歌祭の実施

「草刈り寮歌祭」は札幌農学校の設立日・明治9年8月14日に因み毎年8月14日近辺に行っている。東京都港区の芝公園内（元芝増上寺境内）に在る「開拓使仮学校跡」石碑周辺の草刈りをした後に「都ぞ弥生」を歌うミニ寮歌祭で、今年も平成26年8月17日(日)に開催した。ひと汗かいた後に9名の参加者が近くのホテルレストランにてビールで乾杯し、母校に思いを馳せつつ爽やかなひと時を過ごした。

(4) 西日本大会への参加

恵迪寮同窓会西日本大会が9月13日(土)に京都で開催され、懇親の部では「舞妓さん」の演舞という京都ならではの趣向を凝らした企画もあり参考になった大会であった。当支部からは篠原相談役、坂倉支部長、関口幹事長の3名が参加した。

(5) 恵迪寮大会の開催

平成26年度は「恵迪寮大寮歌祭」をプレジデントホテル水戸にて平成26年10月5日(日)に開催した。また当日は大寮歌祭に先駆け「開識社」講演会も開催した。講師は茨城大学理学部准教授長谷川健氏（平成7年入寮・東日本支部幹事）。演題は「富士山は噴火するのかわ？ 噴火予知の今に迫る」であった。1週間前の9月27日(土)に奇しくも御嶽山の噴火が起き、この事象の分析も含めての講演内容であった。続く「恵迪寮大寮歌祭」参加者は、友誼校OBも交え、総勢49名であった。

(6) 「新春寮歌い初め」の開催

新年の恒例として平成27年1月12日(月・祝)、東京駅八重洲北口サピアタワー10階・北大東京事務所大会議室にて開催した。折からの猛吹雪による交通機関の乱れの影響はあったが、それでも支部役員他計11名の参加を得た。

(7) 役員会の開催

平成26年4月、6月、8月、9月、11月、平成27年2月の計6回開催し、主として「大寮歌祭」等支部主催の行事実施要領等の審議を行った。

【2】平成27年度活動計画

(1) 恵迪寮同窓会理事会に出席予定

4月18日(土)開催の理事会に当支部在籍の本部理事の内2名が出席予定である。

(2) 草刈り寮歌祭の実施

本年も8月14日近辺の8月16日(日)に実施する予定である。

(3) 東日本大会の開催

主管支部として3年に一度の東日本大会を計画しており、10月3日(土)に東京・恵比寿にて開識社及び東日本支部総会・恵迪寮大寮歌祭を開催する予定である。

(4) 「新春寮歌い初め」

新年の恒例として平成28年1月11日(月・祝)に開催を予定している。

(5) 地域恵迪会の活動支援

「茨城恵迪会（6月中旬に開催予定）」、「仙台・東北恵迪会（7月4日(土)開催予定）」の地域恵迪会寮歌祭開催の助言、支援を行い、当支部役員が一人以上参加する。

(6) 役員会の開催

東日本大会他の当支部行事の準備及び当支部の課題検討・解決のため、必要に応じ1～3ヶ月に1回の頻度で開催を予定している。

【3】 財政状況

平成26年度の当支部は水戸での「大寮歌祭」、仙台での「地域寮歌祭」、「草刈り寮歌祭」、「新春寮歌歌い初め」の4度の寮歌祭を開催しており、収支差額の余剰金は例年並みとなりほぼ収支均衡した財政状況であった。平成27年度は大規模行事が10月3日(土)の東日本大会のみであり、適切な財政規模での活動を企画していきたい。

2. 西日本支部

【1】 平成26年度活動報告（平成26年4月～27年3月）

●平成26年度の活動は「2014 恵迪寮同窓会西日本大会」開催の企画と実施に注力することであった。全国から約90名の参加を得て成功裏に終わることができた。

【2】 平成27年度事業計画（平成27年4月～28年3月）

●平成27年度に注力すること

- ① 会員増強活動の推進を図る。
- ② 若手が参加できる支部づくりを進める。

i 役員会開催計画

③ 東海恵迪会や地域幹事との交流を促進する。
④ 本部と連携しての会員名簿の充実を図る。

年5回の役員会を開催し事業の進捗状況を確認する。（5月、7月、10月、12月、3月）

・新任の「井上英樹事務局長」がH27/4/1付で仙台に転勤になる。

・H27年度は、岩井隆郎幹事長が事務局長も兼務する。次年度には新任事務局長を選任する。



平成26年同窓会西日本大会で寮歌を高唱する地元幹事団

ii 主要行事活動計画

◇平成27年度も前年度と同じような行事に参画する。

- ・恵迪寮同窓会本部理事会「4月18日(土)」
(植松支部長、岩井幹事長、木村副幹事長の3人が参加)
- ・ホームカミングデーで北海道支部主催の文化講演と寮歌の集い「9月26日(土)」
- ・恵迪寮同窓会東日本大会「10月3日(土)、恵比寿ガーデン」
- ・北大関連各種行事に参加
(北大関西同窓会、北大応援団、札幌農学同窓会、北大本学、各地寮歌祭 等々)

主要行事活動報告

日時	行事	内容
H26 4/19(土)	本部理事会	伊藤支部長、植松幹事長、岩井事務局長、浦谷支部長代理の4名が参加。年間活動計画を確認。
9/13(土) (京都第2タワーH)	2014 恵迪寮同窓会西日本大会	・開識社：山崎夏生君 (S54 文) “野球でこぼこ道” ・総会：事業報告、会計報告、役員改選 ・大寮歌祭
<p>【北大関連各種行事に参加】</p> <p>①北大関西同窓会行事：「賀詞交換会 (1月)、北大会館祭り (6月)、北大関西同窓会総会・特別講演会・懇親会 (10月)」</p> <p>②北大応援団関連行事：「7大戦応援 (8月・京大)、北大寮歌祭 (10月・東京蒲田)」</p> <p>③札幌農学同窓会大阪支部行事：「講演会 (2月)、市民フォーラム講演テーマは“北と森と海—豊穡の自然がもたらす農水物の恵み” (6月)」</p> <p>④北水同窓会大阪支部総会：(11月・斎藤誠一教授 “衛星利用で宇宙から海を探る”)</p> <p>⑤北海道大学ホームカミングデー：(本学で9月27日開催。北海道支部は文化講演会と寮歌の集いを開催)</p> <p>⑥各地の寮歌祭：「大高寮歌祭 (4月・大阪)、洛陽寮歌祭 (7月・京都)、平城寮歌祭 (12月・奈良)、大阪寮歌祭 (3月・大阪)」</p>		

3. 北海道支部

【1】平成26年の総括

〈成果〉

(1) 当初掲げた諸行事は、ほぼ実行できた。

1) 支部独自の活動

① 1月25日(土)、平成26年春歌歌始めの会約100名参加

② 5月17日(土)、開拓の村旧恵迪寮舎前庭・中庭での観花会&観桜会に11名参加

③ 6月22日(日)、第32回親睦ゴルフ会12名参加

④ 7月26日(土)、第8回恵迪夏祭り19名参加

⑤ 10月29日(水)、第15回開識社講演会(講師・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場教授・荒木肇氏(S53年北大農学部卒、S61年北大大学院農学研究科博士課程修了)約70名参加。

2) 地区恵迪会活動

① 6月14日(土)、第9回十勝・帯広恵迪寮祭10名参加

② 6月20日(金)、第10回道南・函館恵迪寮歌祭10名参加

③ 7月5日(土)、第11回道北・旭川恵迪寮歌祭12名の参加。『道北・旭川恵迪会会報No.11(2014・7・10発行)』を発行

④ 7月12日(土)、第9回日高・苫小牧恵迪寮歌祭9名の参加

3) 本部・他支部・現寮関係・その他

① 5月11日(日)、現寮の観桜会(円山公園)にOB8名が参加

② 6月8日(日)、北大祭への同窓会本部参画に対する支援

〈第一部〉「清き國ぞとあこがれぬ」上映に対する
動員協力と「都ぞ弥生」高唱

〈第二部〉「恵迪寮の自治とくらし」OBと現寮生の座談会

〈第三部〉「一万人の都ぞ弥生」への参加見学

③ 9月18日(木)、柴田晶子さん(H17年北大経済学部卒)「口笛コンサート」に後援会として支援。時計台ホールに約140名参加

④ 9月27日(土)、北海道大学ホームカミングデー2014の一環、「文化講演と寮歌の集い」実施主体は同窓会本部。支部は側面支援。延べ100名強の参加。

(2) 広報活動

① 支部ニュース夏・冬号の発行

② ホームページ投稿の活用

③ 歌始めの会・開識社講演会等でのメール一斉配信の活用。本部の名簿整理の進展によって、使えるメールアドレスも増加した(道内約300メールアドレス先)。

〈課題〉

(1) 地区恵迪会の活動に、バラツキが出てきている。平

成26年は、「道北・旭川」、「道南・函館」、「日高・苫小牧」、「十勝・帯広」の寮歌祭はそれぞれ盛会裏に開催された。「オホーツク」、「室蘭」、「釧路・根室」ともそれなりにコミュニケーションはとれたが開催までには至らなかった。

【2】平成27年の活動方針と事業計画

(1) 活動方針

- 1) 事業計画を着実に実行していく。
- 2) 地区恵迪会との連携を密にしていく。
- 3) 支部役員の若返りを図る。

(2) 事業計画

別紙のとおり。



恵迪夏祭り（サッポロビール会）

恵迪寮同窓会北海道支部 平成 27 年事業計画〈保存版〉

月	日	行 事	総会・幹事会・その他
1 月			17 日(土)第 1 回幹事会
	31 日(土)	平成 27 年寮歌歌始めの会 (氷雪の門)	31 日(土)第 14 回北海道支部総会
2 月			
3 月			
4 月			11 日(土)第 2 回幹事会 (現寮交流会・観桜会)
			18 日(土)恵迪寮同窓会本部定期理事会
5 月	10 日(日)	恵迪寮「円山観桜&現寮交流会」	
	16 日(土)	開拓の村旧恵迪寮舎「観花会・観桜会」	
	?	北大室蘭恵迪会寮歌祭	30 日(土)第 3 回幹事会 (ゴルフ・地区恵迪会)
6 月	6 日(土)	第 10 回十勝恵迪寮歌祭 (ふじもり食堂)	
	13 日(土)	第 11 回道南恵迪寮歌祭 (ホテルテトラ)	…道南恵迪会は毎年 6 月第 2 土曜日開催
	21 日(日)	第 33 回親睦ゴルフ大会	
	下旬	支部ニュース (夏号) 発行	27 日(土)第 4 回幹事会 (夏祭り・開識社)
7 月	4 日(土)	第 12 回道北・旭川「開識社&寮歌祭」	…道北恵迪会は毎年 7 月第 1 土曜日開催
	11 日(土)	第 10 回日高・苫小牧恵迪寮歌祭	…日高恵迪会は毎年 7 月第 2 土曜日開催
	?	第 2 回釧路根室恵迪寮歌祭	
	25 日(土)	第 9 回恵迪夏祭り (サッポロビール・ライオン)	
8 月			1 日(土)第 5 回幹事会 (HC 企画・開識社)
9 月			19 日(土)第 6 回幹事会 (HC 企画・開識社)
	26 日(土)	同窓会本部主催「HC 企画」 (北海道大学ホームカミングデー 2015)	
10 月	?	第 3 回オホーツク恵迪寮歌祭	
			17 日(土)第 7 回幹事会 (開識社)
	28 日(水)	第 16 回開識社講演会 (札幌時計台ホール)	
11 月			
12 月			5 日(土)第 8 回幹事会 (歌始めの会)
	下旬	支部ニュース (冬号) 発行	
1 月			9 日(土)第 1 回幹事会
	30 日(土)	平成 28 年寮歌歌始めの会 (氷雪の門)	30 日(土)第 15 回北海道支部総会

※ HC : 「北海道大学ホームカミングデー 2015」の略称

※「月 日」は、一部暫定的に設定しているものがあります。

以上

お す す め

北大GOODS!
記念品にも最適です

ポスラの
黒板消しストラップ



スノークリスタル&
テディベアグッズ

ミズナラ
メモリアルオルゴール



北海道大学オリジナル
キャンパスバッグ

エンレイ草ノート A4



クリアファイル
2枚セット

他にも素敵な
北大オリジナルグッズがいっぱい♪

お求めは生協会館 1F・中央購買・エルムの森店にて!



株式会社 エルムプロジェクト

〒060-0808

札幌市北区北8条西7丁目 北大生協会館2階

TEL.:011-708-0388 FAX.:011-708-0389 E-Mail: hokudai-shop@coop.hokudai.ac.jp

エルムプロジェクトは
北海道大学と共に大学グッズを企画しています。

北大グッズ受注センター ☎ 0120-0656-38

脳神経外科
神経内科
精神科
循環器内科
リハビリテーション科
放射線科
麻酔科

特定医療法人

柏葉脳神経外科病院

理事長・院長 金子貞男

(医・医学研究科 S45 卒)

名誉理事長 柏葉 武

(医・医学研究科 S31 卒)

診療時間 脳神経外科 (月)~(金)9:00~17:00 (土)9:00~12:00
神経内科 (月)~(金)9:00~12:00 (土・隔週)9:00~12:00
精神科 (火)~(木)9:00~17:00
循環器内科 (月)(火)(金)9:00~12:00 (水)13:30~17:00
(木)9:00~17:00

脳ドック(毎週火・木 ※完全予約制)

①13:30~ ②14:00~

予約電話: 011-859-5636

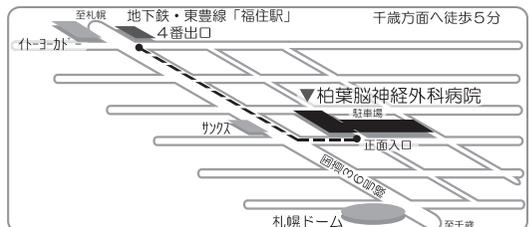
061-8513

札幌市豊平区月寒東1条15丁目7番20号

TEL 011-851-2333 FAX 011-851-2131

地下鉄東豊線「福住駅」4番出口より徒歩5分

<http://www.kashiwaba-nougeka.or.jp>



きよく、おいしく、
たくましく。

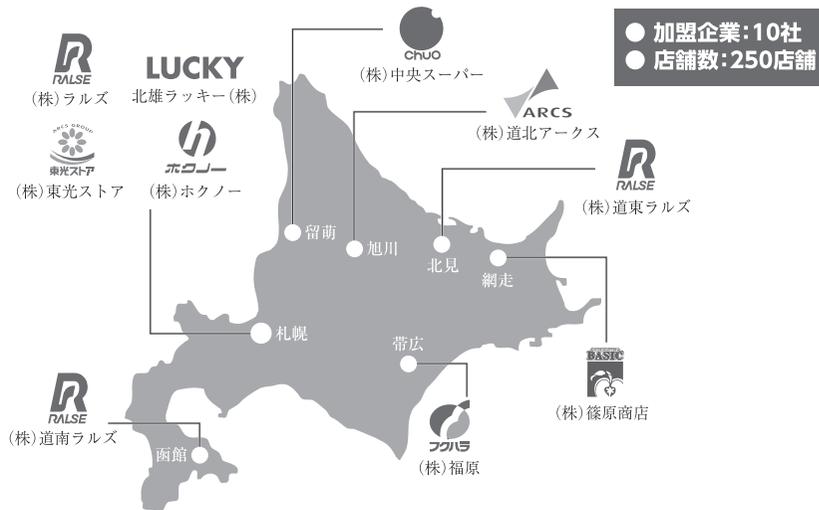
いつだって、食べるあなたを守りたい。
いつだって、作るあなたのそばにいたい。
いつまでも、あなたに元気でいてほしい。

きよく、おいしく、たくましく。
私たちは、北海道ぎょれんです。



北海道
ぎょれん <http://www.gyoren.or.jp>

北海道CGCは10社250店舗が加盟した地域のお客様にご奉仕する
スーパーマーケットのグループです。



CGC 株式会社北海道シジシー
代表取締役社長 横山 清

おいしいお菓子もいろいろ
Nichiryō

きぬつや

絹艶

愛され
つづけて
10年。

日糧製パン株式会社
<http://www.nichiryo-pan.co.jp/>

ONLY 北海道!

新★クラシック

ここにしかない、おいしさが
ついに、新しくなりました。
素材のうまみ、爽やかな味わい。
北海道の、さらなるおいしさ。

これが、北海道のビール。
サッポロクラシック

★ 乾杯をもっとおいしく。
SAPPORO

北海道にありがとう
30th
CLASSIC

北海道限定
SINCE 1985
SAPPORO
ONLY HOKKAIDO
CLASSIC
サッポロクラシック
BRACING AROMA AND SMOOTH 100% MALT BEER
THE ONLY TASTE OF SAPPORO CLASSIC IS ONLY FROM HOKKAIDO
北海道だけのうまみと
爽やかな味わい

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。
のんだあとはリサイクル。 www.sapporobeer.jp サッポロビール株式会社

ふるさとのために、何ができるだろう?
★ 北海道はサッポロビール



代表取締役社長

荒木隆夫

台灣勝利方舟有限公司

地址：80214 高雄市苓雅區三多三路214-12號
TEL：07-3310239
Mobile：0970-321378 +81(0)8041500961
E-mail：araki@wins-ark.com
Web：http://www.sapporokitarich.com.tw/bin/home.php

Youtube動画配信中!! 是非ご覧下さい

https://drive.google.com/file/d/0B9CTn8U_dCdZ3BT2NHMzB6Rzg/view?pli=1

Facebook更新中!

北海道札幌キタリッシュ-奇塔里旭

<https://m.facebook.com/sapporokitarichi?refsrc=https%3A%2F%2Fwww.facebook.com%2Fsapporokitarichi>



代表取締役

荒木隆夫

株式会社ウィンズ・アーク

〒348-0032 埼玉県羽生市大字秀安407
TEL：048-563-0691
FAX：048-563-0692
Mobile：080-4150-0961
E-mail：araki@wins-ark.com
bba195493@gmail.com

倉本聰の名作ドラマシリーズ、初のDVD化

「うちのホンカン」

全6作品収録
本編約280分



大滝秀治(ホンカン=河西公吉)
八千草薫(河西さち)
仁科亜季子(河西雪子)

【税込6,156円 税抜5,700円】

製作著作・発売元 北海道放送株式会社



このドラマは、実際に森町砂原で起こったUFO騒ぎを題材に書いた。～中略～故・大滝秀治さんが、初めての主演を演じて下さり、ホンカンの悲哀を快演してくださった。(ライナーノーツより)

倉本聰

全国のDVD取扱店、インターネット等で
ご注文ご購入いただけます。

お問い合わせ：北海道放送編成局ライツ・コンテンツ部
TEL 011-232-5858 (平日10時～17時)



明年 2016 年は、北大創基 140 年！ アニバーサリー・イヤーを祝うプレ企画として 幻の名著『青春の北大恵迪寮』を特別販売



平成 3 年に刊行された本著は、恵迪寮の百十有余年の歩みが豊富な写真と資料、そして格調高い文章で綴られた名著です。
発刊から四半世紀、北大創基 140 年を記念して貴重な保存在庫 300 部を特別販売します。この機会をお見逃しなく。



今回の特別企画として、絵葉書 2 種「北大恵迪寮歌と北の花」と「北大恵迪寮歌と構内風景」を添えて……

記念価格 1,500 円(送料込み)で頒布します。
購入申し込みは、会誌に同封された振込み用紙に記入・入金願います。

☆お問合せは、恵迪寮同窓会事務局まで。

編集後記

今春は統一地方選挙の年でした。人口の大都市圏集中に対して、人口急減による地方自治崩壊や地方創生が争点になりましたが、全国各地で無投票当選が相次ぐなどやや盛り上がりには欠く選挙戦でした。

そんな中、地方自治の先頭に立つ恵迪寮出身の市長や市町村議員から会誌への寄稿がありました。山梨県笛吹市長の K 君と東京都区議の M 君です。もちろん政治の話は一切なく、「瓔珞みがく」の作曲者・星野奇君の故郷を訪ねた話や寮時代の交友を懐かしむエッセーです。いずれも恵迪寮で巡り合った寮歌や得難い経験が今の人生に繋がっていると、その根底に恵迪スピリッツがあふれる文章でした。

また、今回の札幌市長で恵迪寮同窓会の横山清会長が、初当選した秋元克弘市長の後援会長を務めたことが話題になりました。秋元市長は北大出身ですが、恵迪 OB ではありません。北海道の場合、地元経済界のリーダーが政権与党に対抗する候補の後援会長に就くことは極めて稀です。横山会長があえて秋元市長を推した理由として、芦別市と夕張市の炭鉱町に生まれたという地縁のほか、秋元候補の目線に弱者へのいたわりを感じたと語っています。すなわち、4年間エルムの杜で学んだ秋元市長の心に札幌農学校以来、北大に底通してきた自然への讃歌、リベラルな思考、社会正義、高邁な大志など“クラーク精神”が宿っていたからではないでしょうか。

最後に、社業の傍ら長年、同窓会の煩雑な事務作業を支えて頂いた事務局の佐藤静子さんに感謝いたします。これからもクラーク会館に移った新同窓会事務局の一員として力をお貸しください。

「恵迪」編集長 大隈 昭二 (S40年入寮)

【編集委員】 佐藤 市雄 (S38年入寮) 氏平 増之 (S38年入寮)
内藤 春彦 (S40年入寮) 白浜 憲一 (S40年入寮)
八重樫幸一 (S41年入寮) 岩本 栄一 (S44年入寮)
吉澤 武治 (S47年入寮) 谷口 哲也 (S48年入寮)

会誌「恵迪」第15号 2015年6月

発行 恵迪寮同窓会

〒060-0808 札幌市北区北8条西8目

北海道大学クラーク会館3F

TEL & FAX 011-706-3276

E-mail (メールアドレス)

info@keiteki-ob.jp

同窓会ホームページ

<http://www.keiteki-ob.jp/>

発行者

恵迪寮同窓会会長

横山 清

印刷・製本 株式会社アイワード

〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91

TEL 011-241-9341

FAX 011-207-6178

さまざまな想いがつまった本づくりは
実績豊かなアイワードにおまかせください

自費出版

自分史やエッセイ集、画集や写真集・作品集など自費出版から
記念誌、研究論文、報告書、出版物、辞書・事典まで

本づくり

原稿作成、リライト、工程、撮影、費用…、どんなことでもご相談ください。創業以来
40年以上にわたり蓄積してきた本づくりのノウハウと最新技術でお手伝いします。
お気軽にご連絡ください。詳しくはアイワードホームページでもご覧いただけます。



ホームページ

[http://www.](http://www.iword.co.jp)

iword.
co.jp



新時代の〈企画・情報処理・印刷〉企業

株式会社 アイワード

本社：〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91
TEL(011)241-9341 FAX(011)207-6178

東京営業部：〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階
TEL(03)3239-3939 FAX(03)3239-3945



個人情報保護の
マネジメントシステム
プライバシーマーク
2005.9.6 認証取得



障がい者就労支援マーク
北海道が制定し、障がい
者の就労支援企業である
ことを示します。



ハートフルマーク
全国障害者雇用事業所
協会が制定した会員事業所
共通のシンボルマークです。

豊かな大地に輝く懸け橋



株式会社 東光ストア



株式会社 ラルス



株式会社 ラルス



株式会社 ユニバース



株式会社道北アークス



株式会社 道南ラルズ



株式会社篠原商店



株式会社 道東ラルズ



株式会社 ジョイス



北海道・東北地方に広がる325店舗

ARCS アークスグループ

株式会社アークス 代表取締役社長 横山 清
札幌市中央区南13条西11丁目2番32号 TEL.011-530-1000



株式会社 ベルプラス

〈関連会社〉
株式会社エルディ
〈関連事業〉
ホテル篠原
アークストラベル